



江戸名所圖會
十六



丘氏之記

名所圖會卷之六

開陽之部目錄

金龍山沙茶寺

西宮松尾社

沙茶川

法訪明神社

徳園社

香越の神社

日向野舊址

日輪寺

海禪寺

祝言寺

觀音堂

樞寺

浪杏八幡宮

西福寺

東本願寺

天嶽院

清水寺

長遠寺

日蓮大士

三浦神社

大慈寺

第六天神社

淨念寺

報恩寺

稱性院

上之太子堂

幡隨意院

觀音堂

樞寺

浪杏八幡宮

西福寺

東本願寺

天嶽院

清水寺

長遠寺

日蓮大士

三浦神社

大慈寺

第六天神社

淨念寺

報恩寺

稱性院

上之太子堂

幡隨意院

觀音堂

樞寺

浪杏八幡宮

西福寺

東本願寺

天嶽院

清水寺

長遠寺

日蓮大士

三浦神社

大慈寺

第六天神社

淨念寺

報恩寺

稱性院

上之太子堂

幡隨意院

武藏國

武藏國八王子

開陽之部

名所圖會

卷之六

開陽之部

名所圖會

卷之六

開陽之部

名所圖會

永昌寺

廣徳寺

下谷稻荷社

下谷岡

東叡山山下の宮

六条天王社

常樂院

上野坂本口岡

養玉院

若菜寺

入谷庚申堂

全枝安樂寺

根岸圓光寺

兼輪西光寺

時多屋

不動堂法印の松

正燈寺

万里小法寓居之地

小野熱田の神社

本戸孝範第宅回廊

小塚東天王社

飛鳥の神社

誓願寺

後馬の塚

子任大塚

光榮社

沼田延命寺

熊野権現社

富士沙間宮

沙間の洞

十二月森

彼谷の宮

西村井法大師堂

大師加持水

六月村八幡宮

餘木法陀如來

梅田の五院

天満宮

誓願の神社

白旗塚

不渡城跡

檜場

新日神の宮

不渡

不渡城跡

檜場

思ひ川

牛頭天王洞

天満宮

志保稻荷社

思ひ川

隅田川渡

石渡古戰場

正平合戦之圖

石尾不動堂

徳泉寺

袈裟掛松

沙茅の系

好飛塚

亀の池

袈裟掛松

采女塚

玉姫稻荷

東野先生墓

法源寺

陸水鶴の系

今戸陶慈師

長昌寺

今戸八幡宮

慶養寺

今戸陶慈師

山谷極今戸橋の番

今戸八幡宮

慶養寺

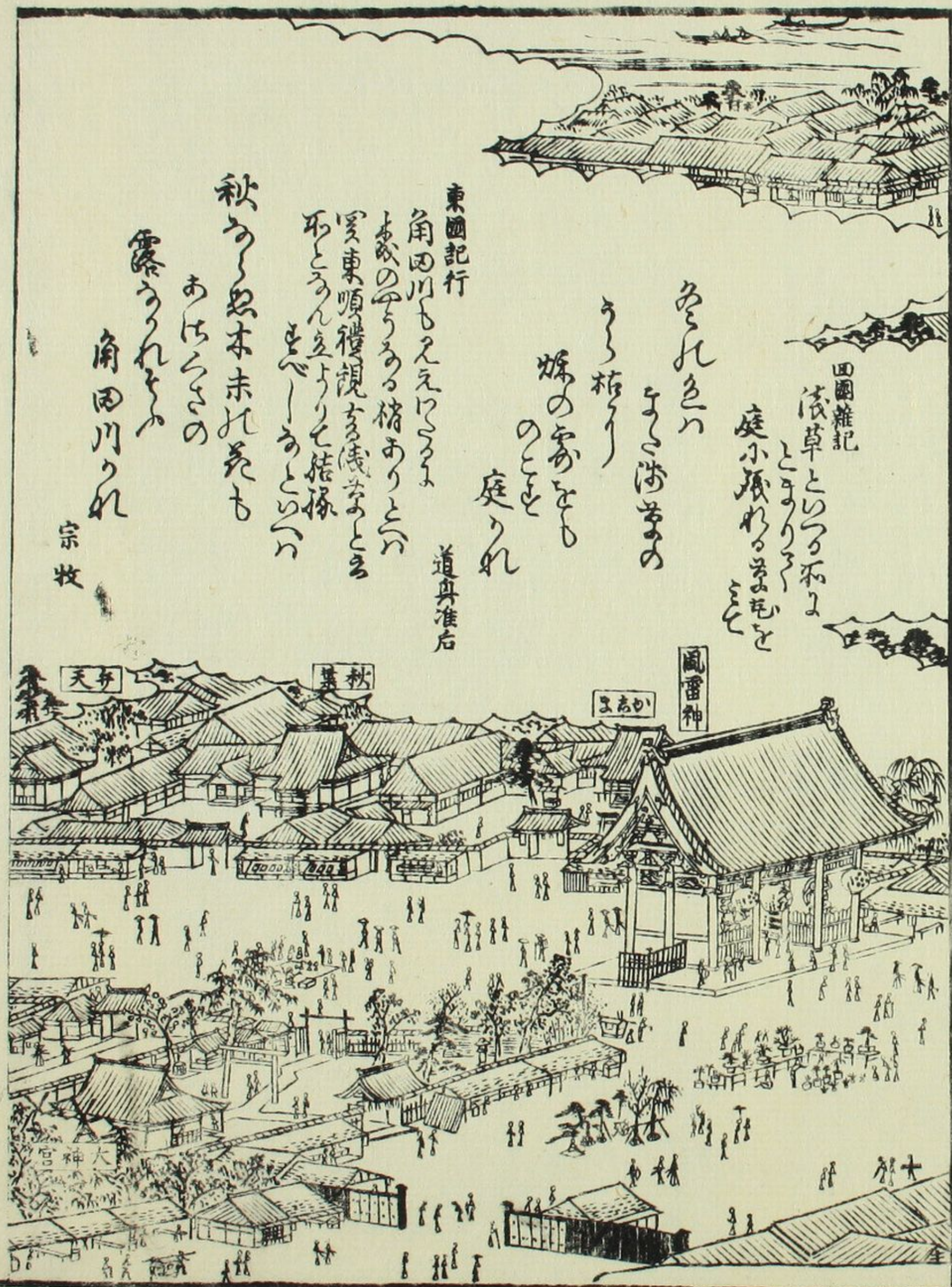
志保山

聖天宮

日本堤

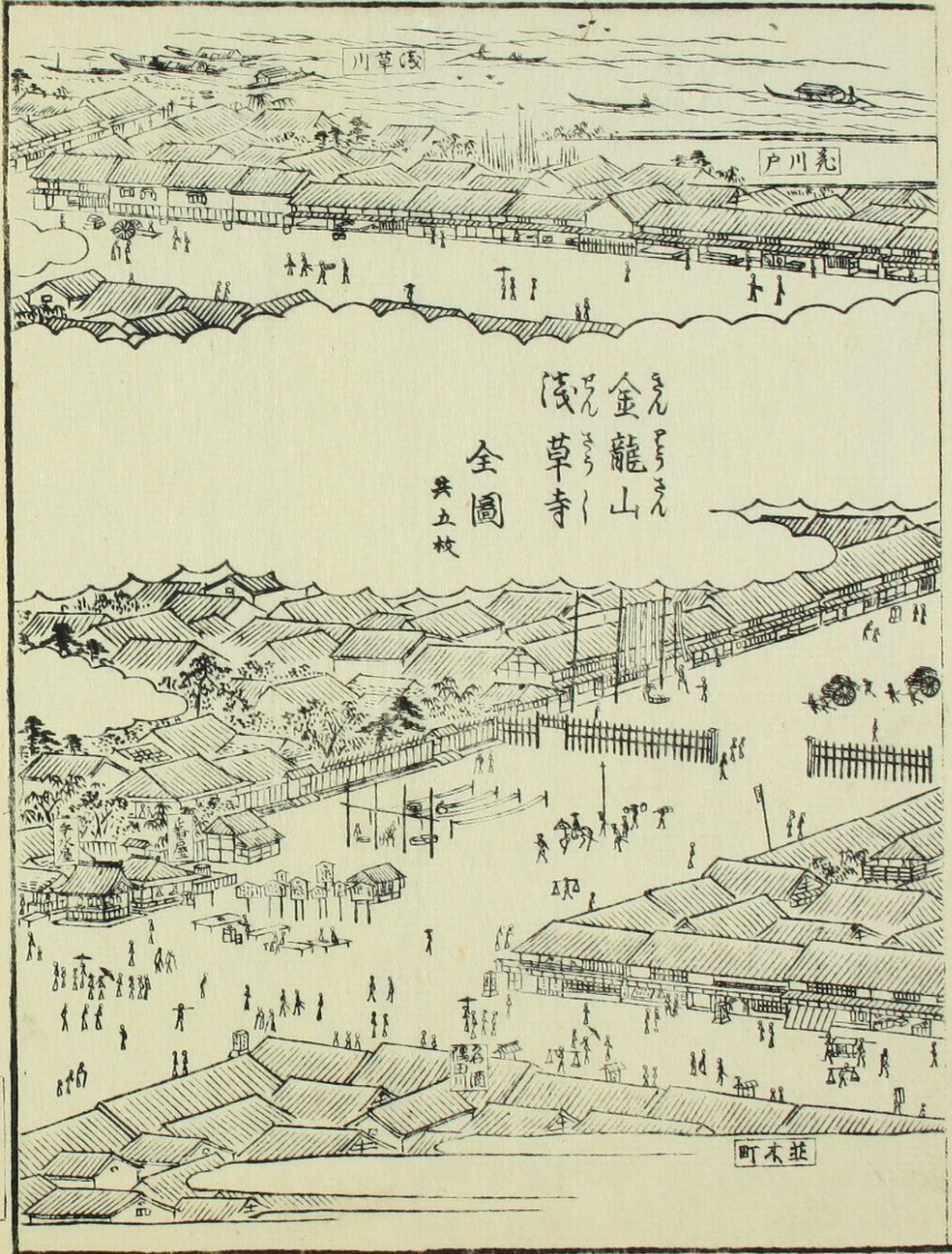
新吉東町

志保山



東國記行
 角田川もええけり
 秋のやうなる積ありといひ
 又東順禮親を儀なまといふ
 形とらん立よりて結縁
 志しあといひ
 秋もね本未れ茂も
 あはらふこの
 露うつれそ
 角田川うれ
 宗牧

田圃雜記
 浅草とつる不よ
 庭小娘わらまを
 冬れ色
 まつさき
 うつれ
 娘の家を
 のこ
 庭うれ
 道真准后



金龍山
 浅草寺
 全圖
 共五枚

川草浅

戸川亮

町木並



五元集

名の

松

館

りり

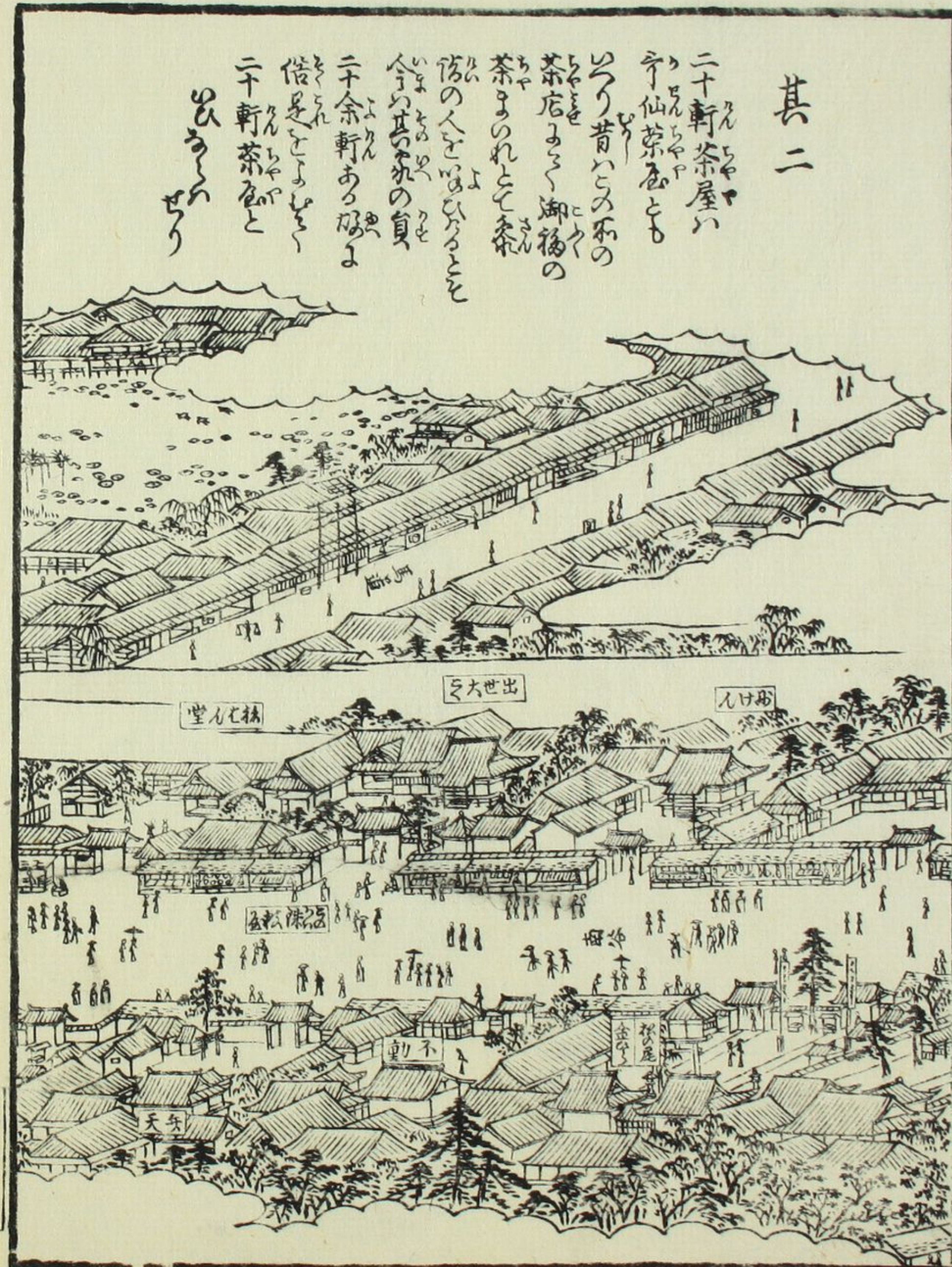
今

茶

其角

院園梅

子



其二

二十軒茶屋ハ

予仙茶屋とも

りり昔ハその

茶店より御福の

茶子のれとと茶

防の人とていふこと

今ハ其の負

二十余軒あるなり

倍是とていふこと

二十軒茶屋と

いふこと

大世出

人け

堂ん七棟

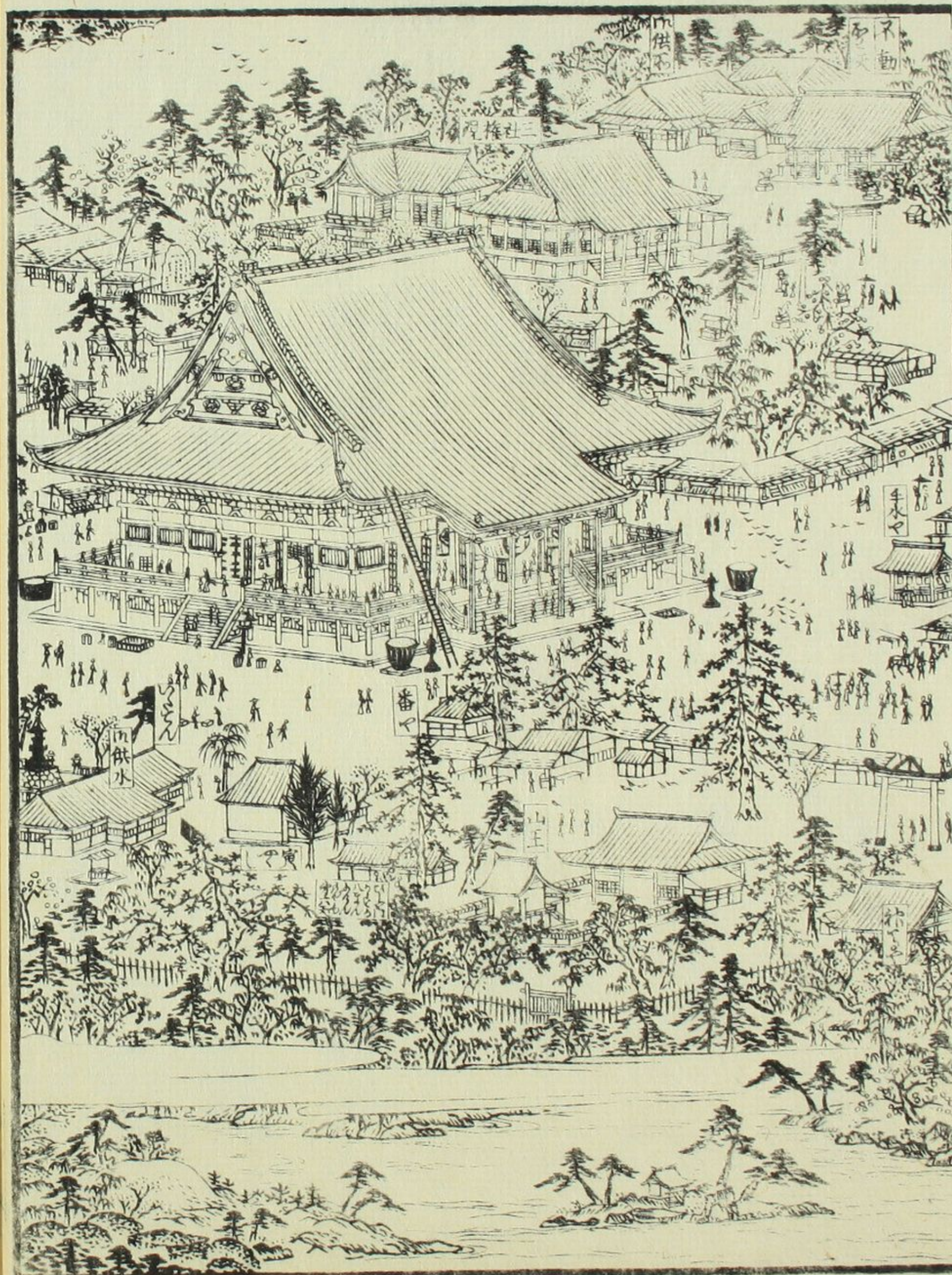
松

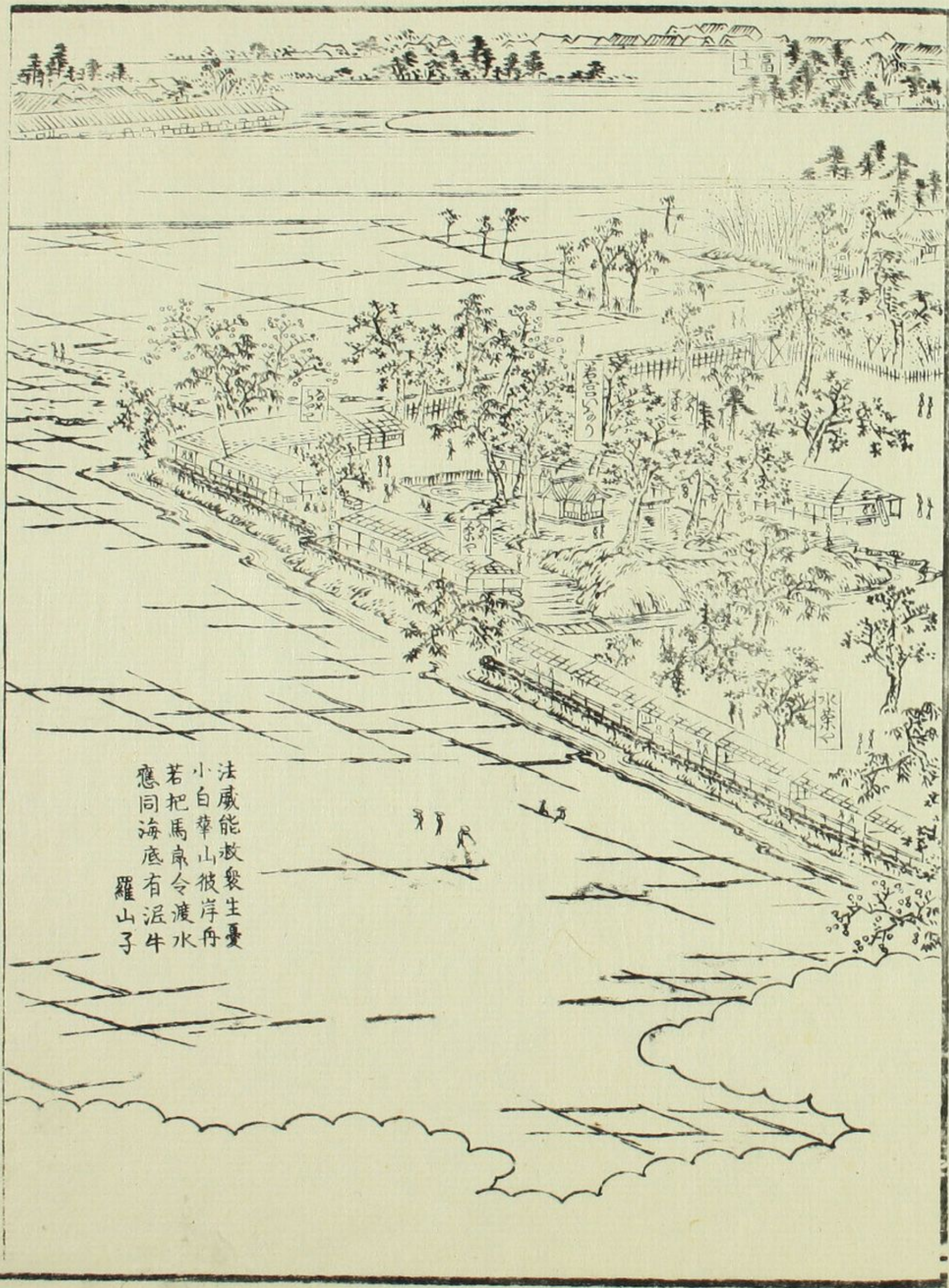
不

天

金







法威能救衆生憂
 小白華山彼岸舟
 若把馬京令渡水
 應同海底有泥牛
 羅山子



其
 五

再々小あり趣意... 軀の息撞を傳... 再々小あり趣意... 軀の息撞を傳... 再々小あり趣意... 軀の息撞を傳...

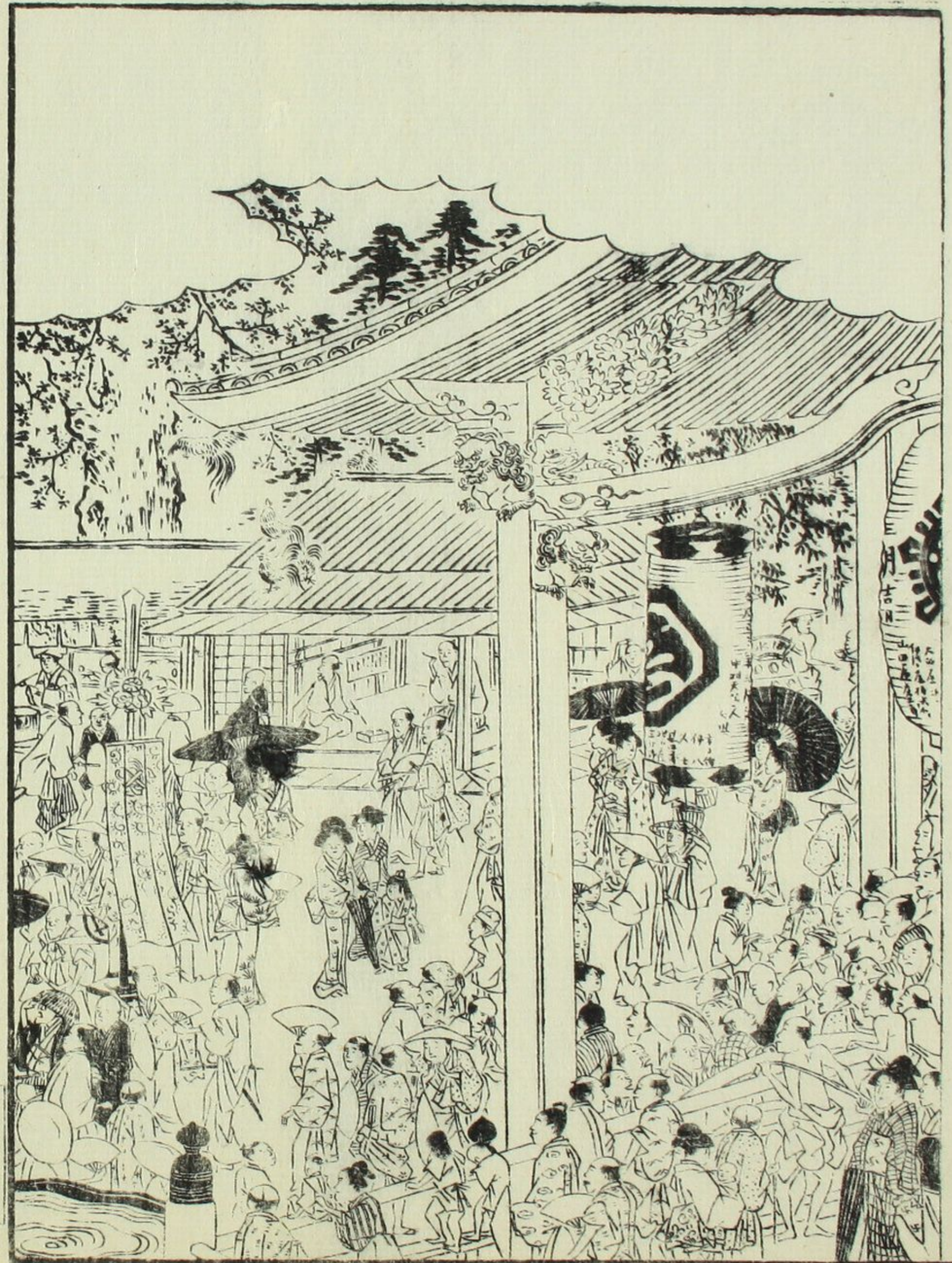
日本國武列豐島郡十束鄉金龍山淺草寺洪鐘銘
夫鐘者震梵苑之枯禪發騷檀之深省者矣南關浮
提各以音聲長爲佛事西郡勝地特開榛莽觀此道
扣龍澤之月耳根契證者速趨解脫之門庭眼裏聞
聲者則蘿山通之妙果當時若不記者後代誰得識
哉銘曰前響備九天新鑄成後福應大千
規鑄成前響備九天新鑄成後福應大千
未鑄成前響備九天新鑄成後福應大千
至德二年卯五月初三日
勸進僧都海譽
勸進大和國道高
鑄進和泉守經宏

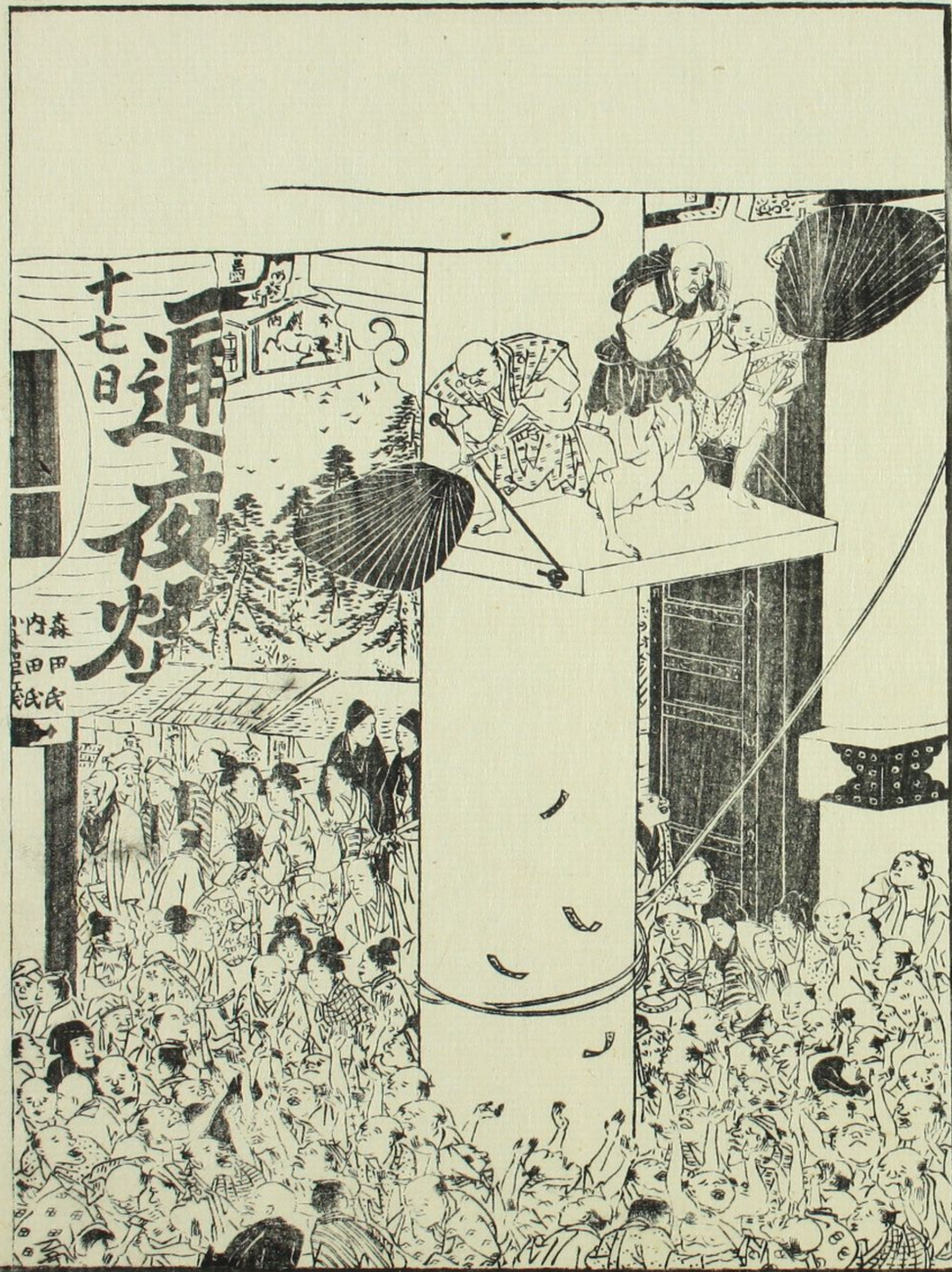
三社大権現社 本堂より良の方あり... 額 三社大権現 隨喜樂院一品公遵法親王真蹟 熊谷稻荷祠 本堂の後の方あり... 同魔堂 本堂の乾の方あり... 念佛堂 同所小あり... 同魔堂 本堂の乾の方あり... 念佛堂 同所小あり...

念佛堂 同所小あり... 同魔堂 本堂の乾の方あり... 念佛堂 同所小あり... 同魔堂 本堂の乾の方あり... 念佛堂 同所小あり... 同魔堂 本堂の乾の方あり...

護摩壇之趾 同所無也... 護國殿 同所小あり... 護摩壇之趾 同所無也... 護國殿 同所小あり... 護摩壇之趾 同所無也... 護國殿 同所小あり...

六月十五日
糸禮之園





第九節

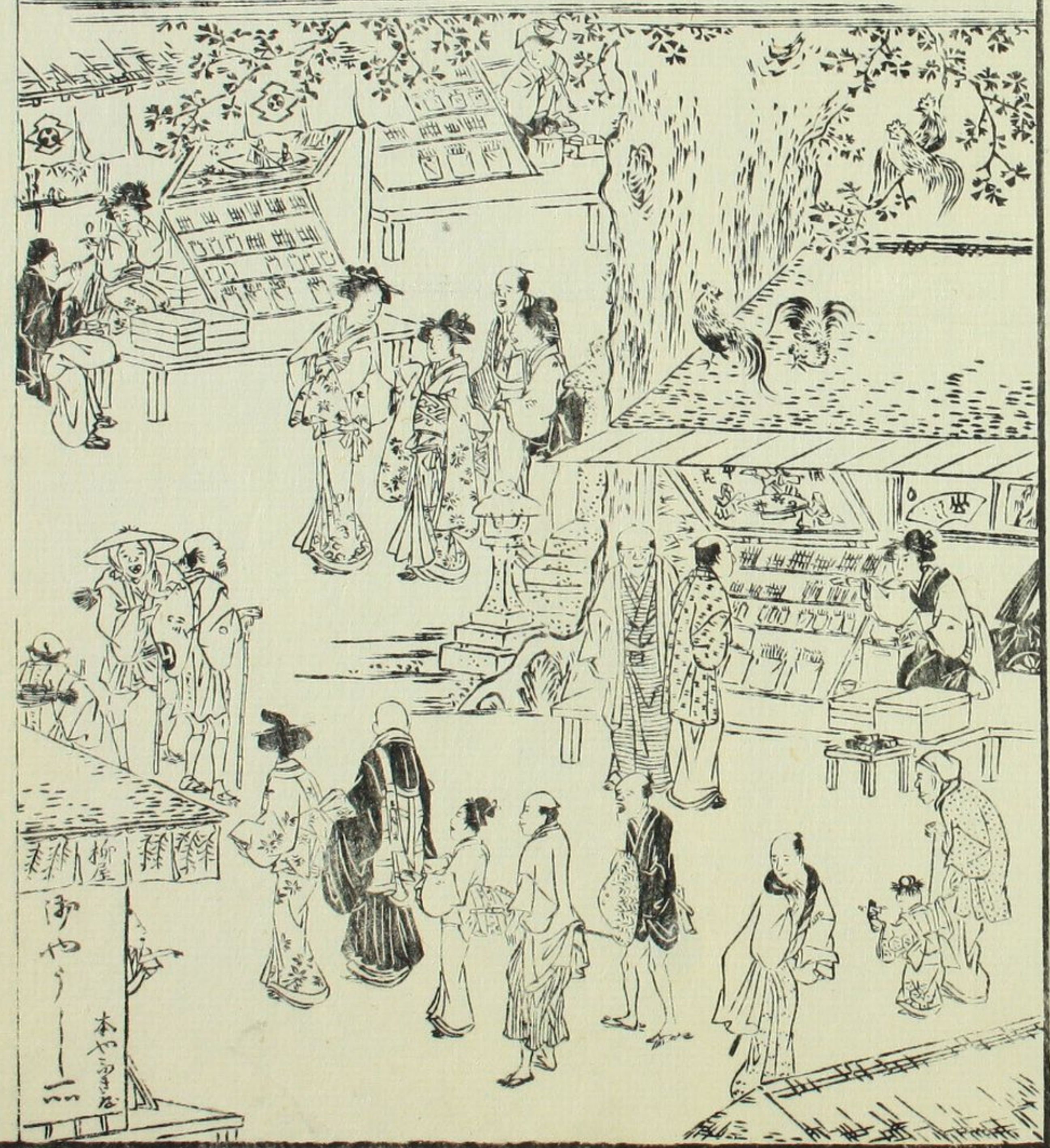
鑄師 武 川 深 大 田 近 江 大 塚 藤 原 正 次

石枕 いしのまくら 中東中谷州五院小あり庭中小小に枕あり是を焼く此と字すまゝと當まの仕立小石の枕あり傳説の文明年中道貞州后田圃雜記小せり文章をそ小記を願る倍付と異なり田記よりまゝの文に記さるるむ

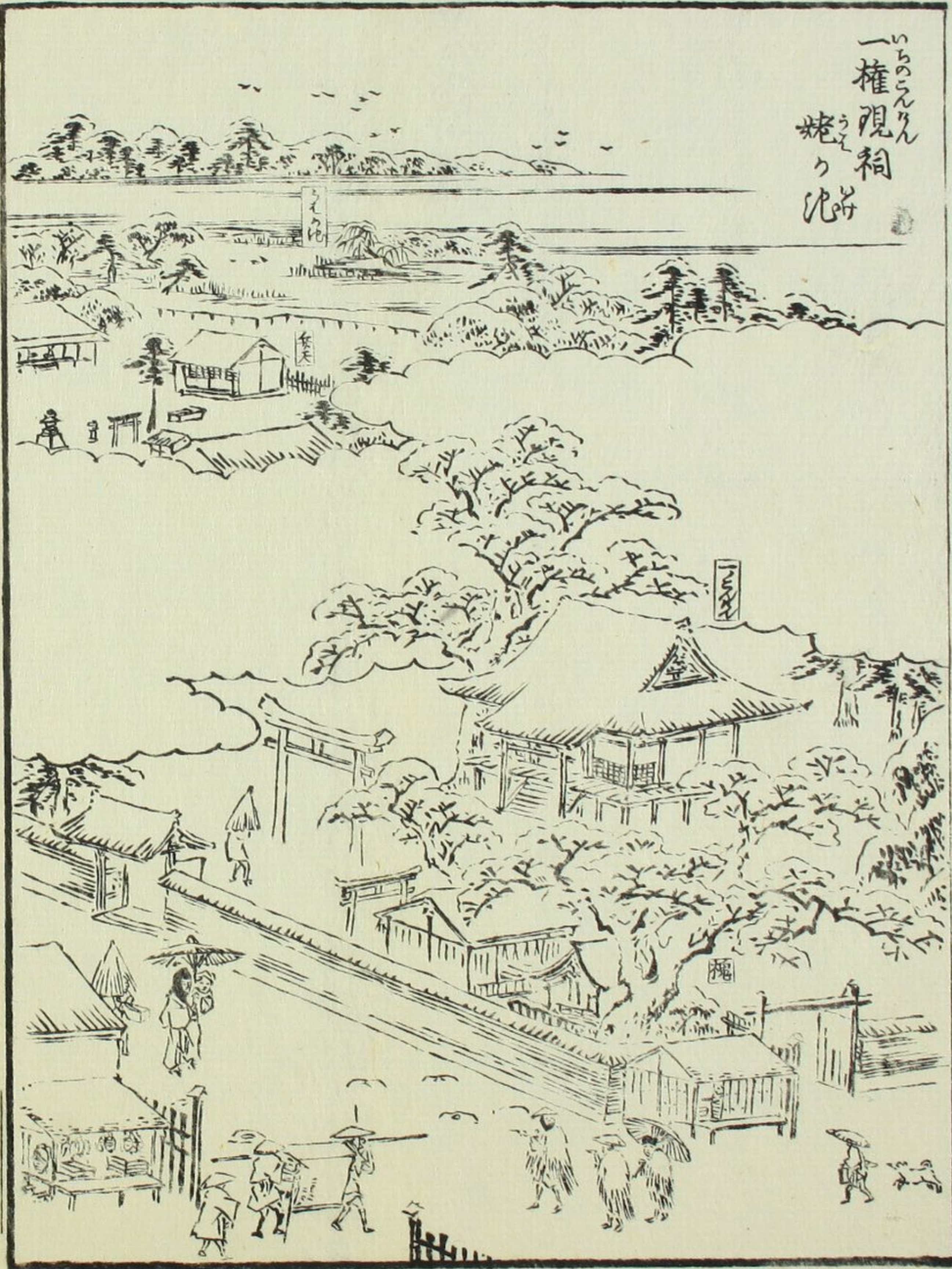
圃圃雜記云 此里れろとそ小石枕といへるゆゑか石あり其故を尋るる中頃の事小やありりむさきけりひたり娘と一人持たり容色おほくよのつねちりりかの父母娘を遊女小志して道あるとと小むりひかの石枕とそにいさちひて交會のゆせひとそとそつりり兼てよりあつたの夏ちれの折をそりひて彼父母枕のそとそに多寄くとも福一そりりる男のひうへをうらたそと衣装以下物と取て一生を送りたりたさるほと小彼娘はやくとひりかやあちりさきや箴履もち世の中小ゆるゆゑさこの業として父母りるとも小悪趣小墮して永劫沈淪とむるのかれさ先非小垂て悔ても益あり是より後のさましく工夫して所詮我父母を出一也

楊枝店 やうじてん 境内楊枝を賣る店甚多し柳屋と稱するものありて本原とてこれと今其茶号を唱ふるゆゑ多く竟しは此の名産といふなり僧徒律子楊枝五の利あるを載て

- 一は苦りし
- 二は臭りし
- 三は風を除去
- 四は熱を去り
- 五は痰をのぞく



一権現祠
姥り沈み



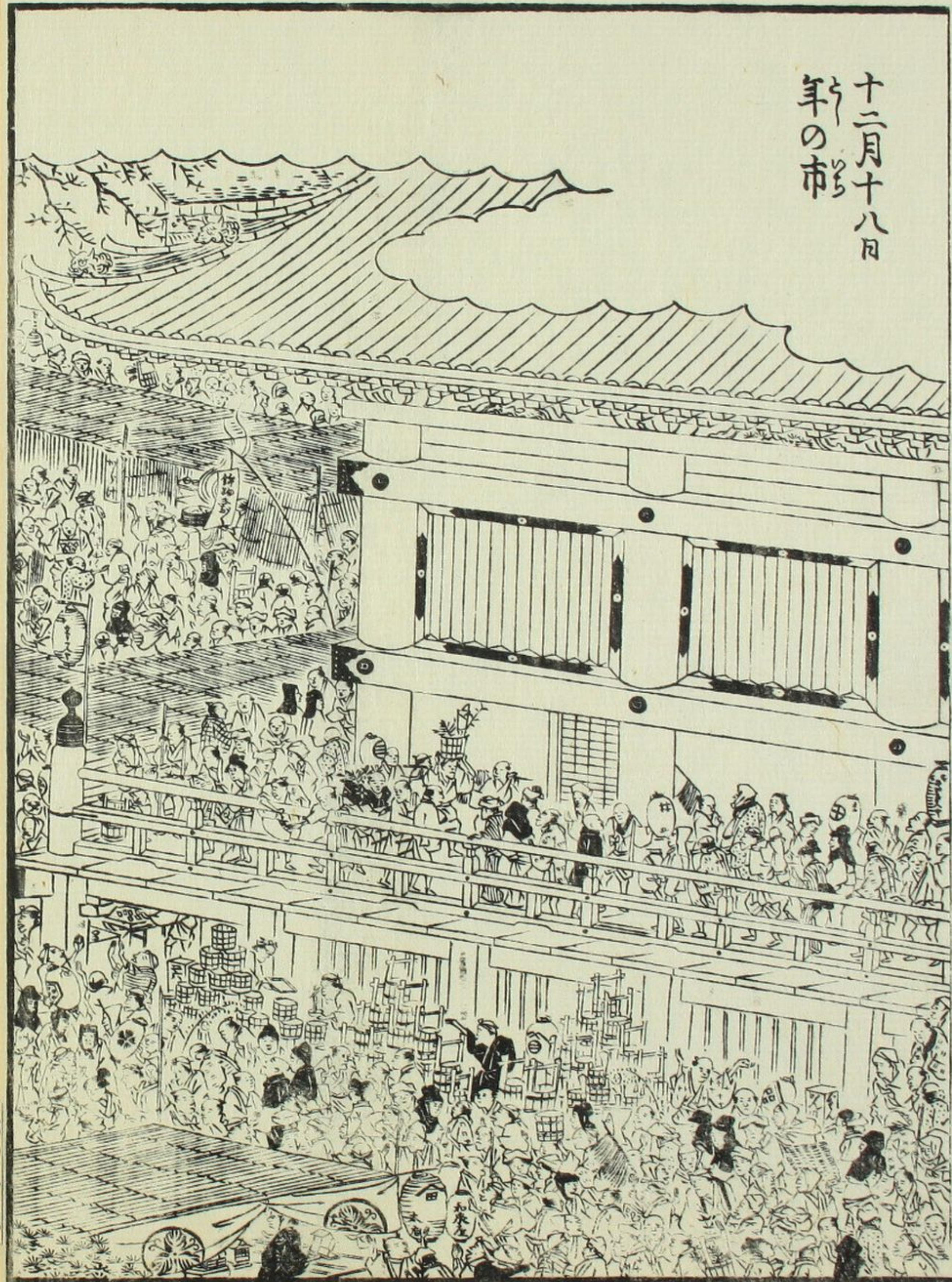
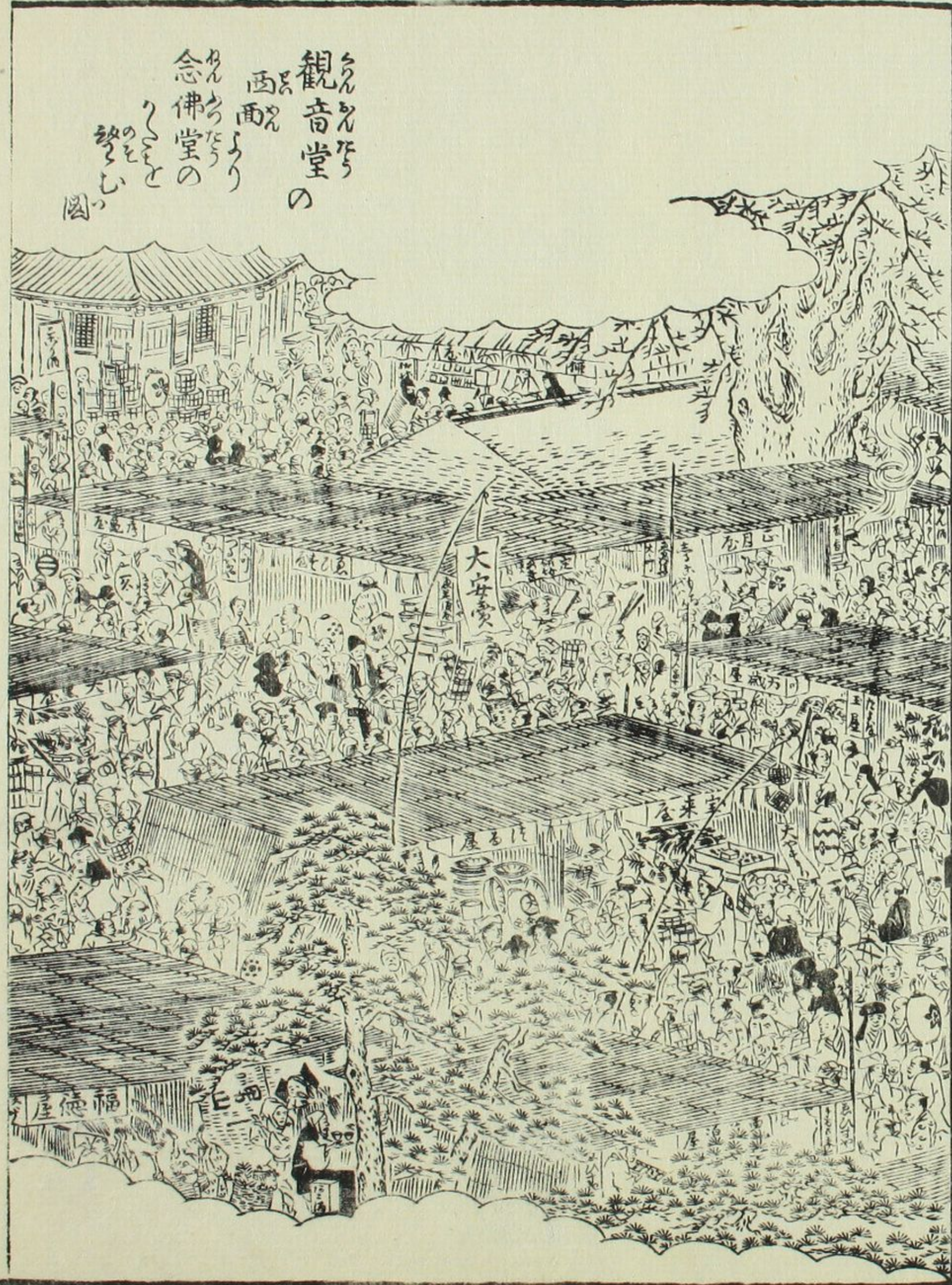
さて見むと思ひある時道ゆくありと告げて男の如く出立て彼石小
 外りのつもの如くを得て頭を打つたたり急き物とも取むとく
 引かるとなる夜をあげて見む人獨りややくとひてよとく
 され我娘ありむられまといてらさすも云えむとれ一夫
 より彼父母をさす小發ふて度くの悪業をも悲愼懺悔して今午の
 娘の菩提をも深くとめひまひと語りてと語りて古老のふれ
 へ

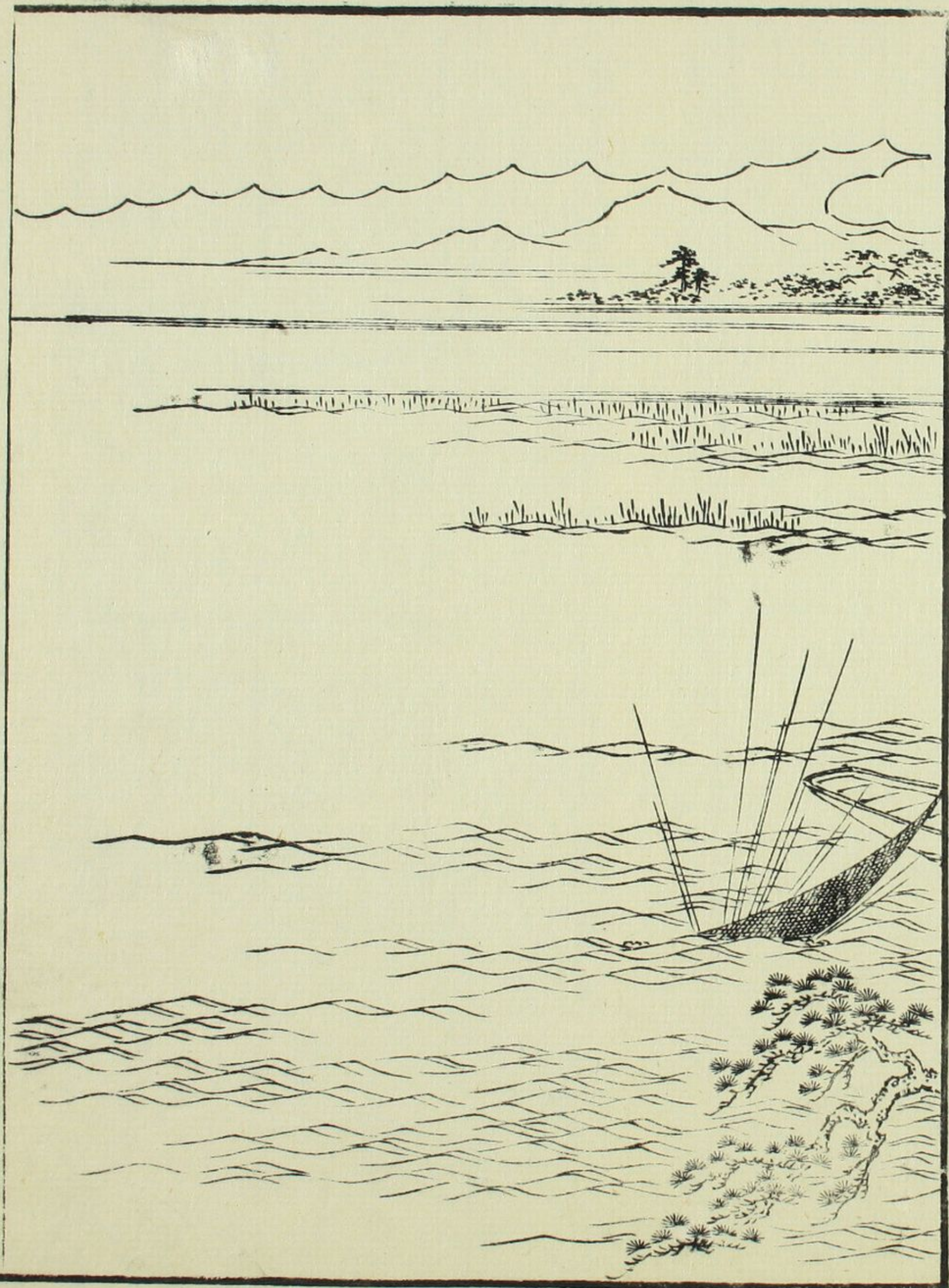
ほろろのつもの世もさる石枕さこそおかりの思ふらめ

當所の寺号淺草寺といふ十一面觀音小してまつとましくひれと

靈佛めとましくとらむとらむ

一権現社 因所頭松院の境内小あり土倍あかむ堂と云往古當寺奉る觀世音出願のよと
 草刈の草藪をとりつと柱とてつもの草堂と建て彼靈像と安座一奉り一脚踏
 たり小ありと堂と名へて後世遷りて河加半堂と
 たり傍小觀音影向の槐あり
 六地藏石燈籠 雷神門の外荒川戸河の入口角小あり故小土人此所の河岸をさして古地蔵あり
 河岸とらつこの池に往古より奥列海道の馬次ありとを其頃をせんあんの





依草寺觀音大士
 の出現ありしハ
 推古天皇三十六年
 戊子三月十八日あり
 此の山に中知とて
 檜前儀成武成等
 の主従三人との宮
 戸川に網をかりて
 は舟をかりて
 一よ一縁記
 の中より詳あり





住古寺師臣中知とよみ
 権前實成武成等の
 主従後草川子細と
 親音大士の正像を
 感得て以此地の
 草川集て藤を
 りて仮の御堂と他
 を内は彼奉るを
 安直し奉りたりと
 りい修へ其地は今の
 東谷一の権現の地
 あり草川の後林よ
 ありて十社権現と
 ありて十社権現と
 (Suzukinokan)



兩度の戦い小軍ありて武藏守小任りしれり同五年の夏任限満して重病小のつて卒せ依るに推
と三國の守小任せらるるありて雅の常陸大掾國香の守上總介良兼の長男とて平将門と諫く切腹の
一六席と連 當寺小諸當國の大守なるむをと祈求すのつてあはせとて辻任
り見たり

此國の守とるをたれに靈驗の空りけるをのめ奉り奉堂を以て宝塔撞樓

樓門経藏法甚常行の所の社壇 の所の社壇 と造立し田園數百町を附して長く龍

義の曉を期せむ 又長久二年辛巳十二月廿二日大比震動し佛客顛倒 遙小後白河院兼曆

三年己未十二月に日堂塔回縁す其時奉尊火中と出づ坤の樓の梢よりうづ

ぬ美徳二年戊寅に月藤原成實四箇年の間當國を拜任し猶重任の望

ありし新願一靈驗の依代々窄龍の田畑を尋く元の如く皆施入し奉

堂塔を修營し彼坤の樓を以新小觀音の像と彫刻して納らる 其後今内津

奉行備田を治政情と書なりり 又盛衰記小依兼四年九月十日武衛武藏下總

又仁安三年戊子用宗法印大衆小同心

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日

縁起小八月十七日とありて縁あり十七日小

右兵衛佐源頼朝泰請り

承久三年辛巳

願書を捧け白檀の大悲の

信濃布千端を寄附ありし伏見院

御宇正應二年己丑十月廿一日大辨聖とつて汝門其頃堂宇の破壊を歎十

方小勸進して正安二年庚子三月十八日修營落成す其後建武年中將軍

尊氏瀧西發向の折り夢想小依る當寺觀音願書をこめらるる同觀音

三年壬辰 今年文和と改元あり 閏二月廿日 縁起小三月廿日と 武藏野合戦も兼て勝

利ありしを新願ありて合戦の後美田を寄らる 永和二年戊午十二月十二日伽藍回縁

夫より後天文四年己未八月十八日炎

上す其頃相小田原の城主北条氏綱當國を領し其れに破壊の諸堂再

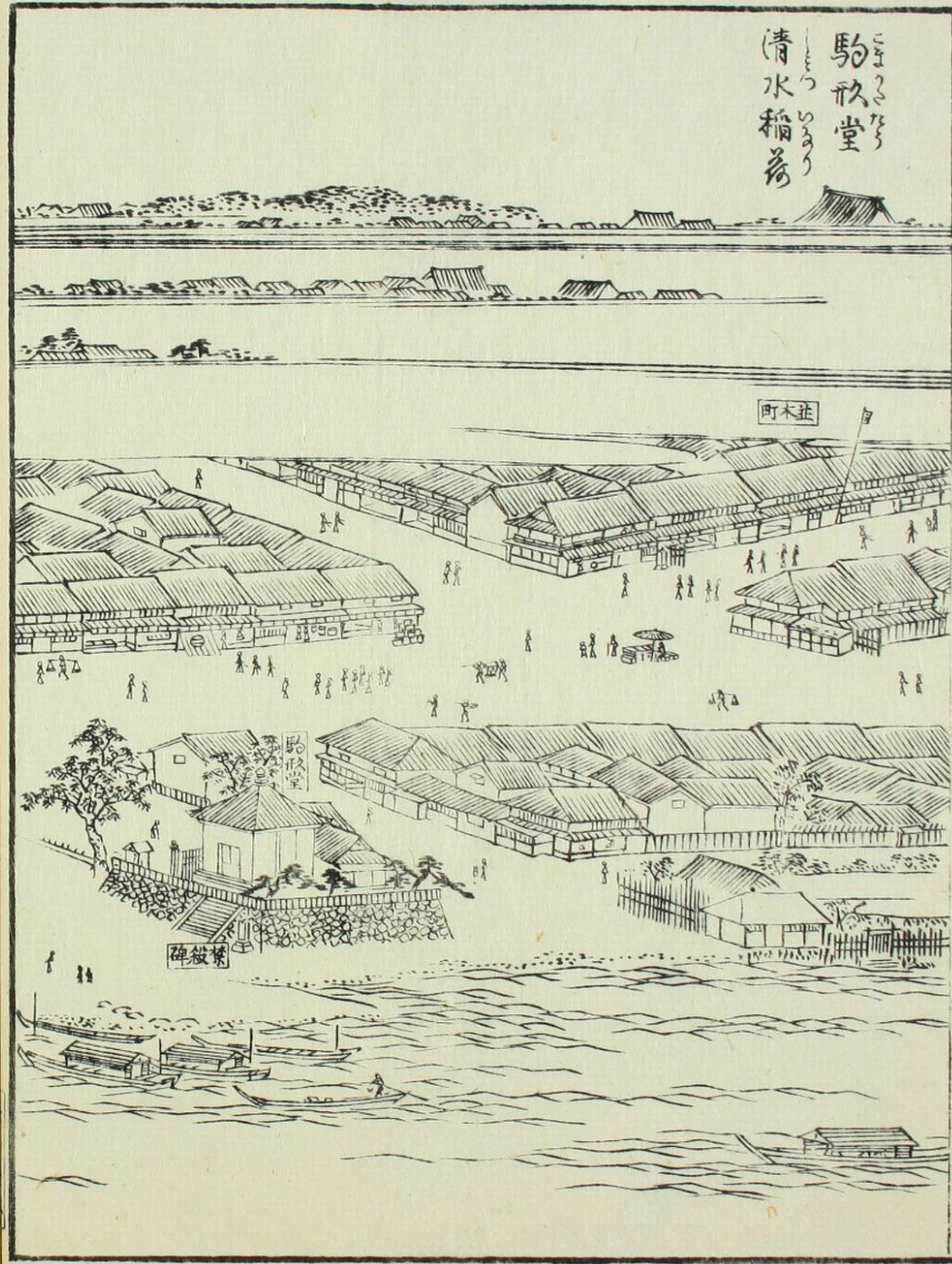
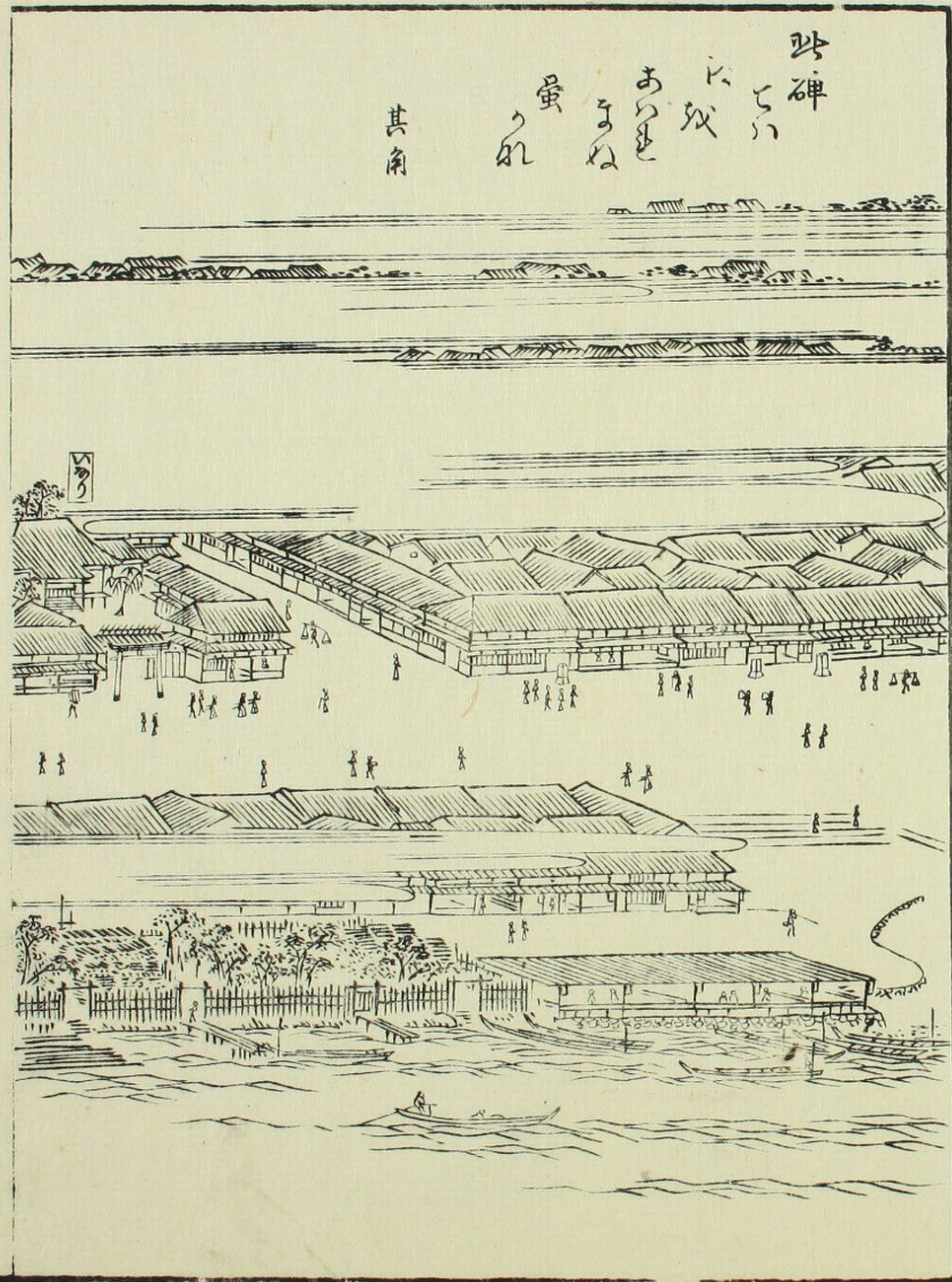
興ありし大伽藍と 天文八年己未五月十八日當寺奉加帳小島津長徳軒大道寺盛

富松田盛秀等の名を住し其は奉文の意小合り又知足軒

縁起小八月十七日とありて縁あり十七日小

縁起小八月十七日とありて縁あり十七日小

縁起小八月十七日とありて縁あり十七日小



三島明神社
諏訪明神社



閻魔堂

八幡宮より南の方式三丁と隔つ称光山長延寺と号し奉る閻魔王

ハ運慶の作りし其丈壹丈六尺あり額小閻王殿と号し延享年中未聘韓

人の筆ぬり當寺の慈覺大師草創ありし時昔ハ下野國小ありしと文永年

中此比一辻すこと或悦小昔の震う雲小ありしと國初の頃る養所毎歳正月七月十六日夫れ

諸群集す

棄衣婆像運慶の作りし奉る化馬地藏尊徳子の作昔の紀の那智山小ありしと

石山觀世音石山院保く觀音菩薩とそ信しありし昔の紀の那智山小ありしと

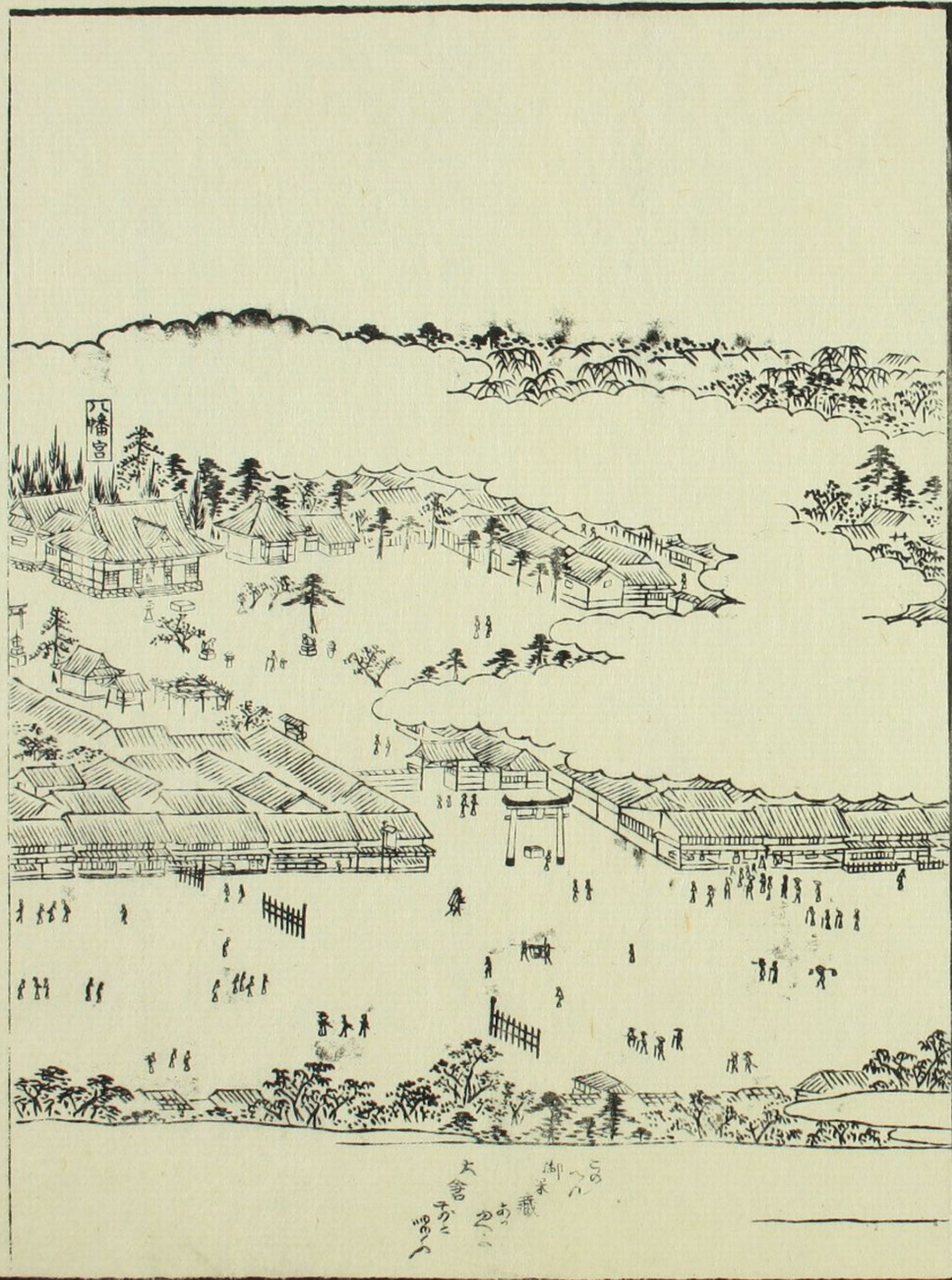
佛眼上人佛眼上人として慈眼供養せし法皇より規音の畫區三十三所觀音頌れ煩禮ありと

祇園社同所閻魔堂の南小隣る當社牛頭天王ハ天曆年中の鎮座ありしと

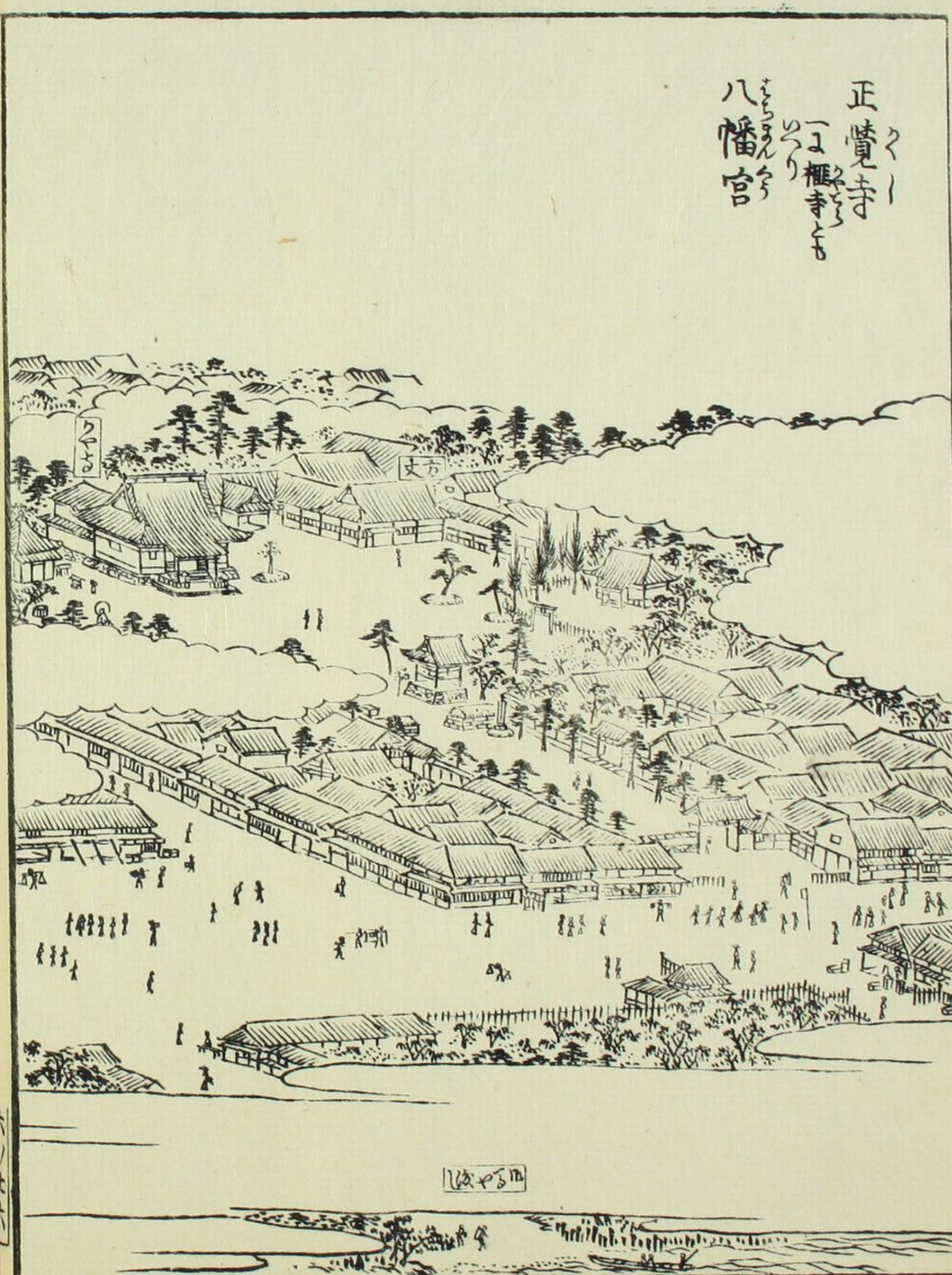
大倉前の總領守小して別當を大田寺と号し

十王堂境内小あり慶長十八年又寛文御建まありしと中その地藏菩薩して左右小冥府十五

銀杏八幡宮同所福井町あり傳く云當社の永養六年源頼義朝臣同



正覺寺
 一ノ樞
 八幡宮



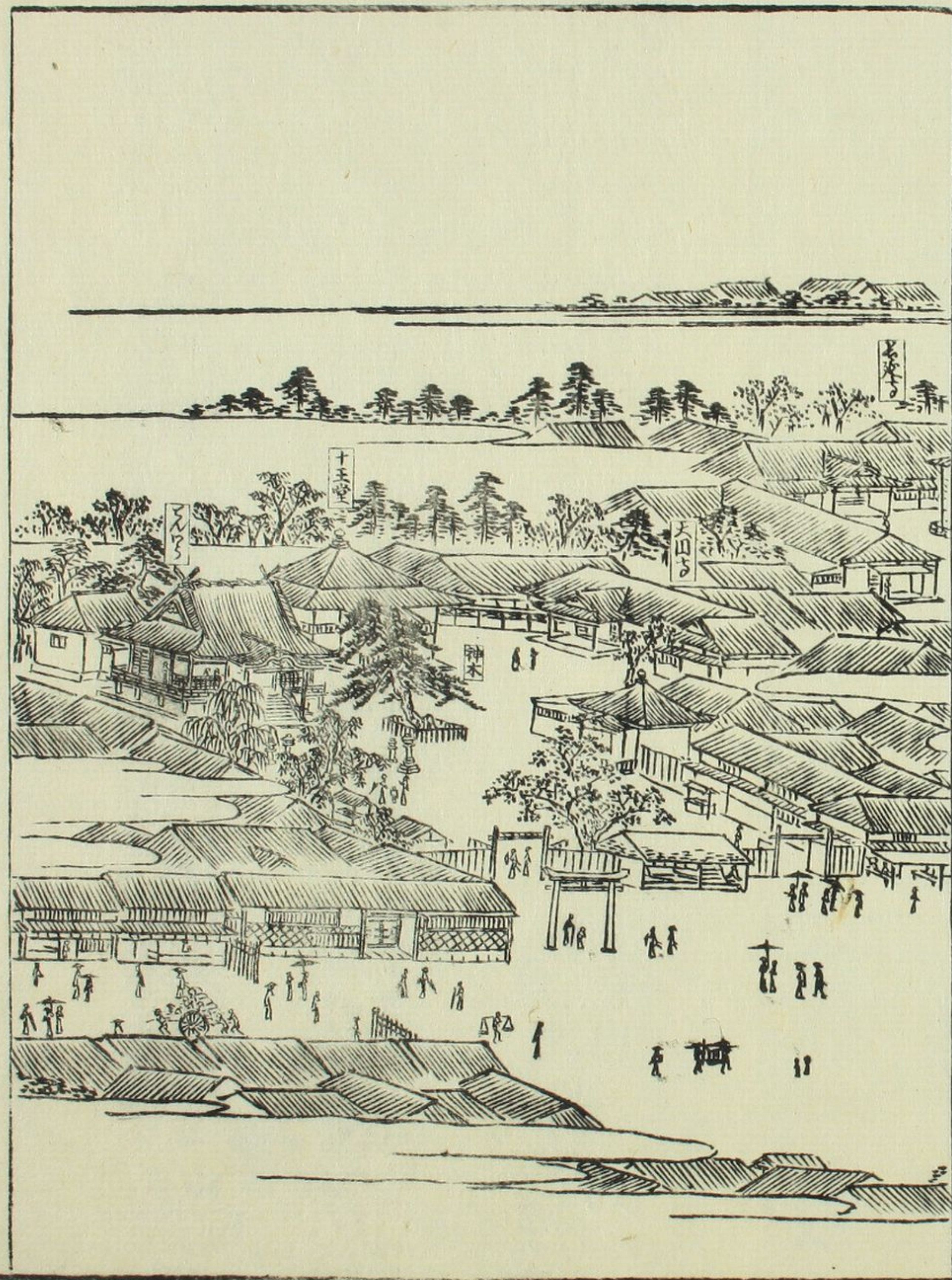
御厩河岸渡



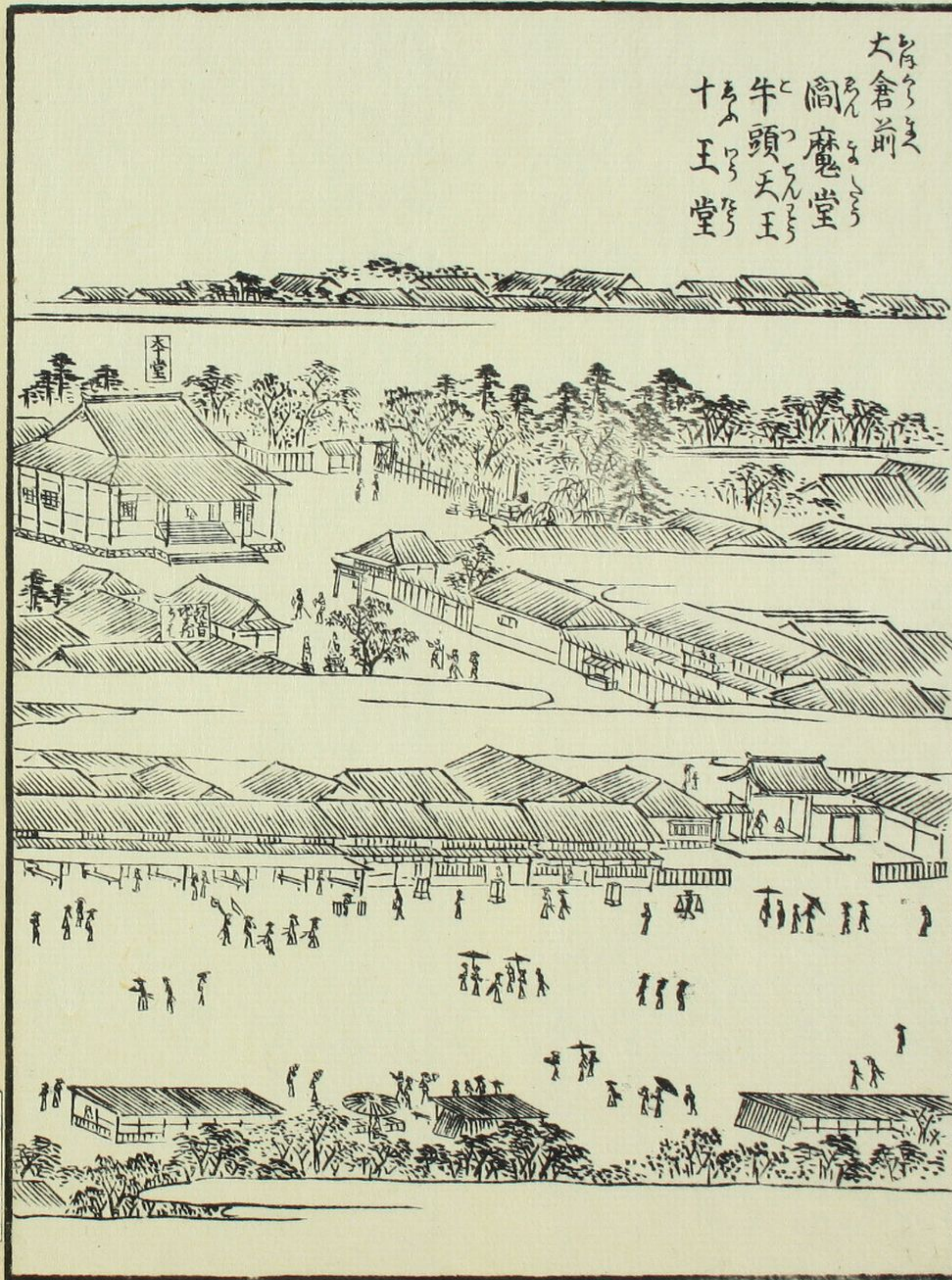
義家朝臣眞の初下向の時と小至りたす小河上より銀杏本の流と来ふ
 あり則義家公手はくく地はは一折言て曰朝敵退治勝利ゆへ此樹すまやふ
 枝葉と常ふへとあり遂は其軍勝利ありて凱陣の時々々ひまふりぬふ
 枝葉栄々とは八幡宮と勧請ぬひとを其昔ハ八幡塚と唱りくるとん神本
 の銀杏樹ハ延享二年の秋暴風ハ吹折て今つらふ其枯株を存せり
 第六天神社 後草橋の外より昔ハ大倉前森田町ふりり一坂官保に年火
 災の後今の地に移る祭神ハ面足尊皇根尊なり 天神ハ茂原の村ハ
 孫塚稻荷社 當地の旧社なり 往古はあや葉系の里と云ふハ
 作一畧ハ入道ハ社の例ハ庵室と結ひて住む別當玉花院ハ主齋孫なりと云り
 越里 越明神の辺より大倉家の辺までといり小倉家分限帳ハ富永若丸忠
 江戸越村の内と傾する一記せり

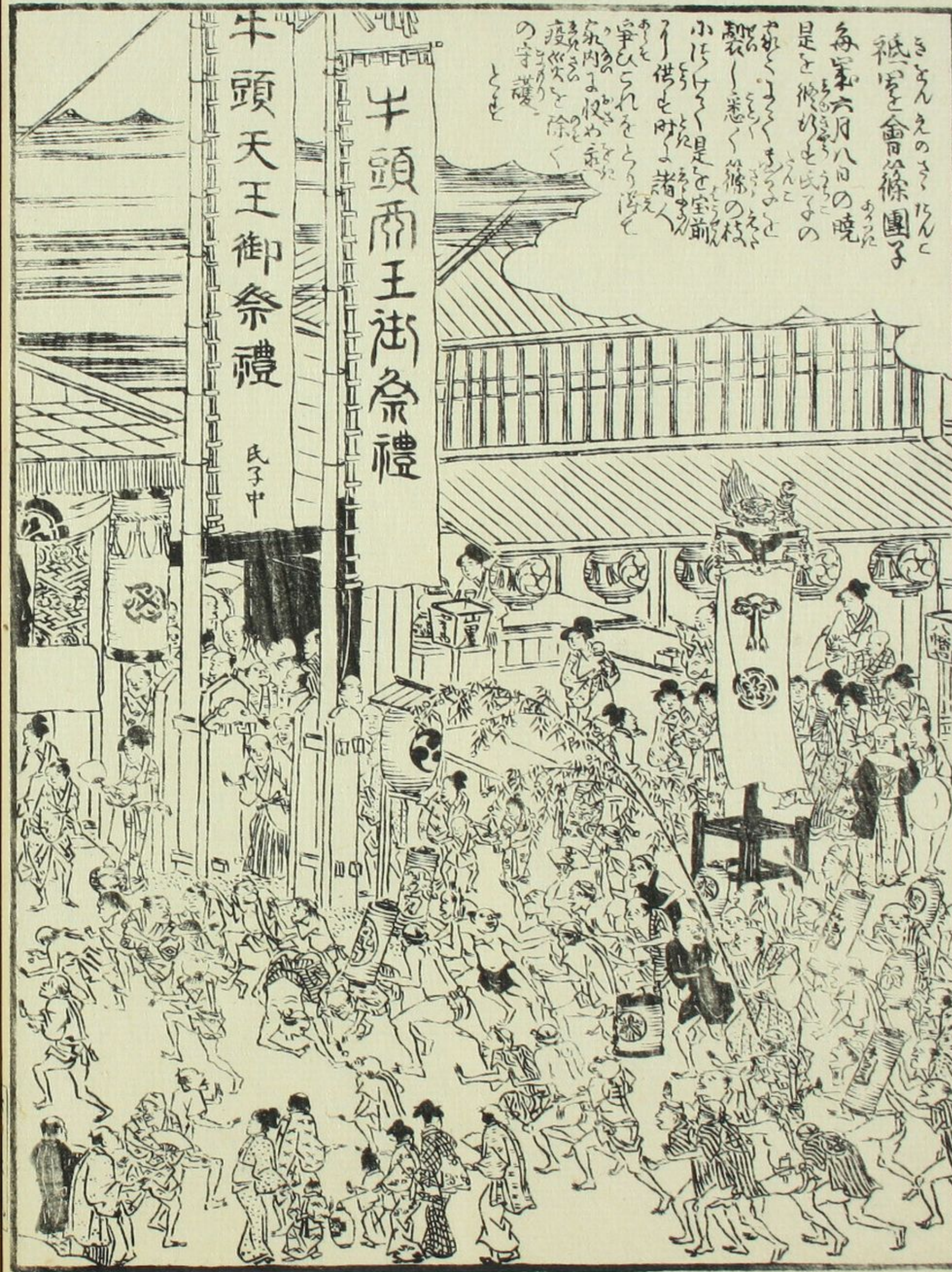
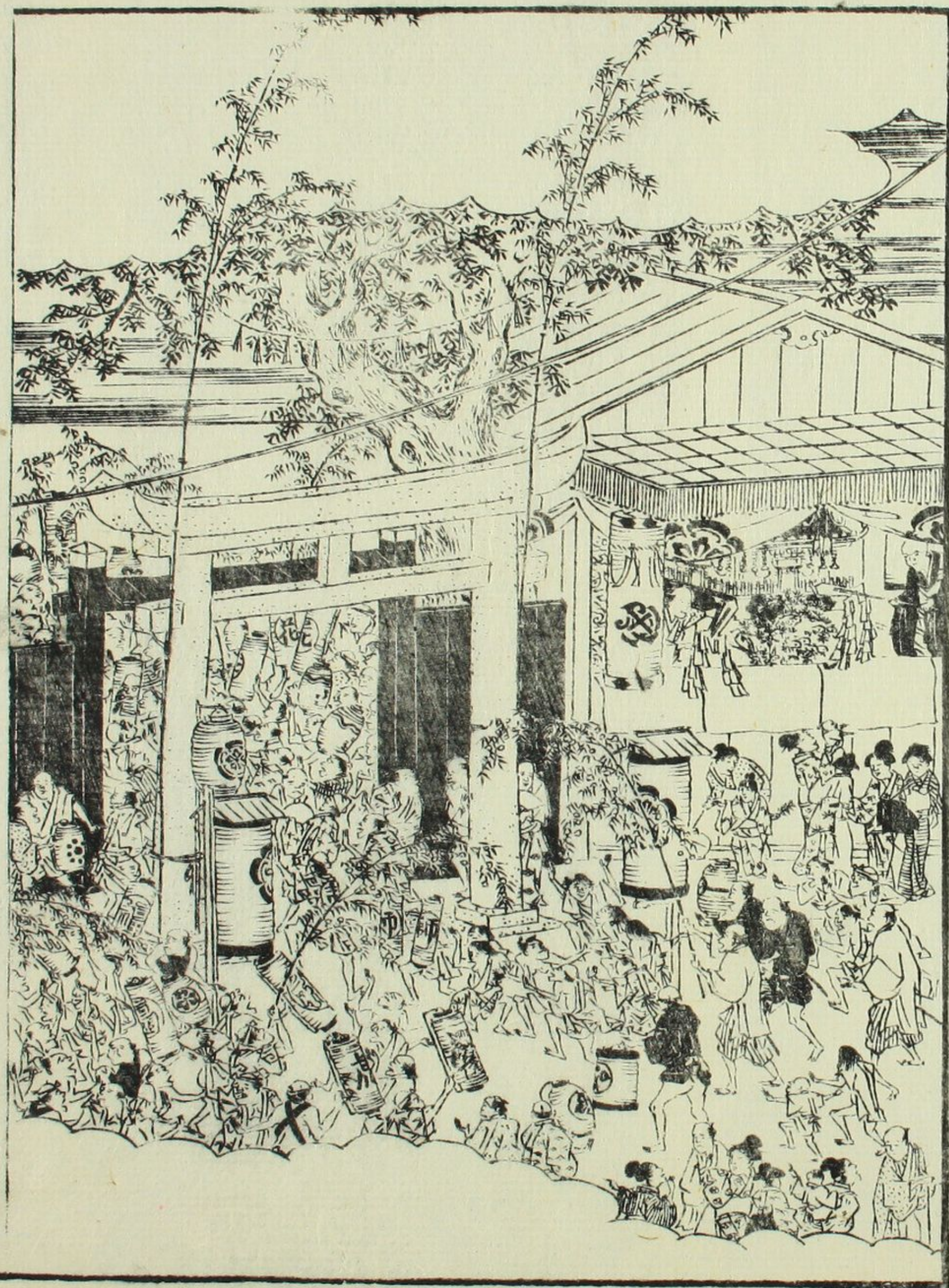
寛惠北園紀行ハ文明十八年十二月廿二日隅田川の辺を越といへる海村ハ片流といふ箱河被宅
 二里半あり一ノ岡村ハありあきなる金巻さし金巻一まつり岡十九年元旦よ

あさあさるはをひけくや荒は根のぞんと志を新小倉孫立らん 寛惠



大倉前
 簡魔堂
 牛頭天王
 十王堂





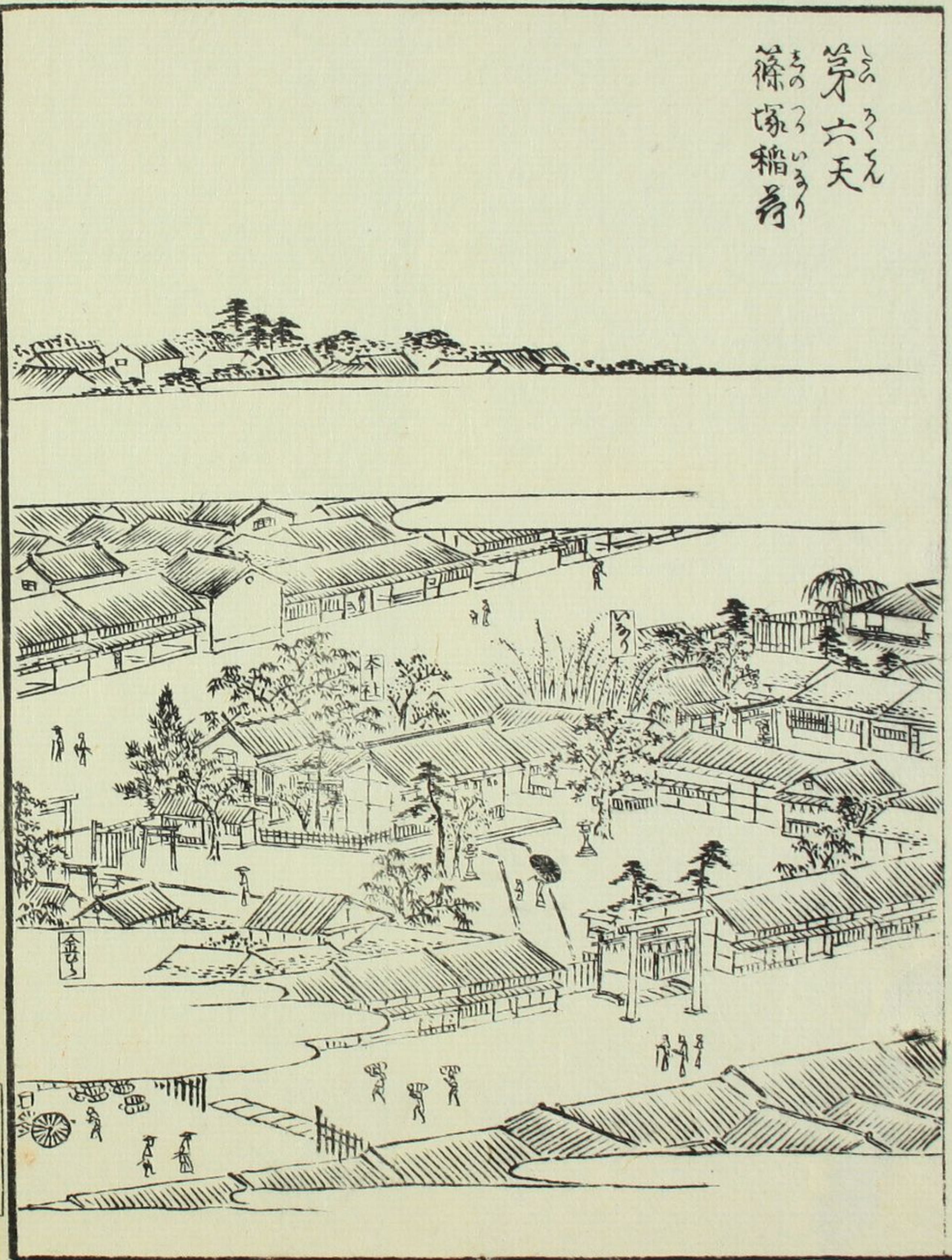
各戸を會々徐園子
 是を彼坊を氏子の
 小はけく是を室前
 了供を時諸人
 守ひこれをとり寄て
 家内よ収め家
 疫を除去く
 の守護
 とす

牛頭天王御祭禮

牛頭天王御祭禮

氏子中

第六天
篠塚稻荷



田圃雜記 鳥越の里といふ所へ行きて

暮小くり中らりの川くといそく日小あれ寝小行鳥越乃里 道貞在后

鳥越明神社 元鳥越町あり此邊の産土神とす祭神日本武尊相殿天

兒屋根命あり 昔の第六天神熱田明神を合せて鳥越三所神社と号けり正保二年此地

より熱田の三宮の地へうつり第六 當社の最古跡あれとも舊記等散失して勸請の年曆

未由等詳ありすとつり祭禮ハ隔年六月九日あり

東光山西福寺 良雲院と号け 良雲院殿 御尊殿と号け小寺一 鳥越明神

より三所をて東の方小ありに大淨宗四ヶ寺の隨一して奉尊阿弥陀如

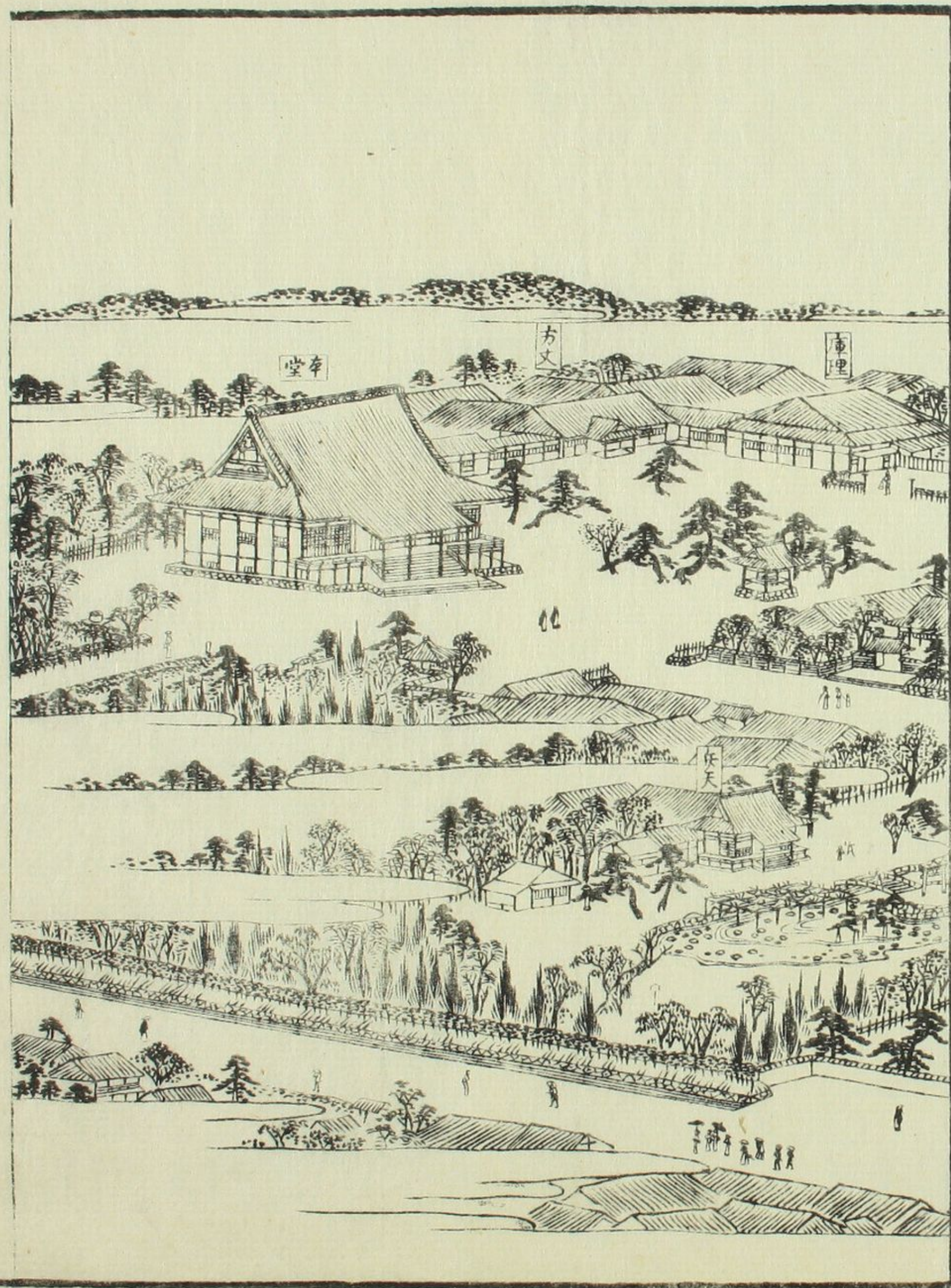
来の安河弥の作あり 三カ所をて 兎山と真蓮社貞譽不傳上人と号け 年五月

寂を 遠の加屏り割戦死の迷魂得脱の師あり 迷魂得脱の功ハ武父の戦功

小等一り其功を永世傳へよと 神祖 松平の御称号 泰山号

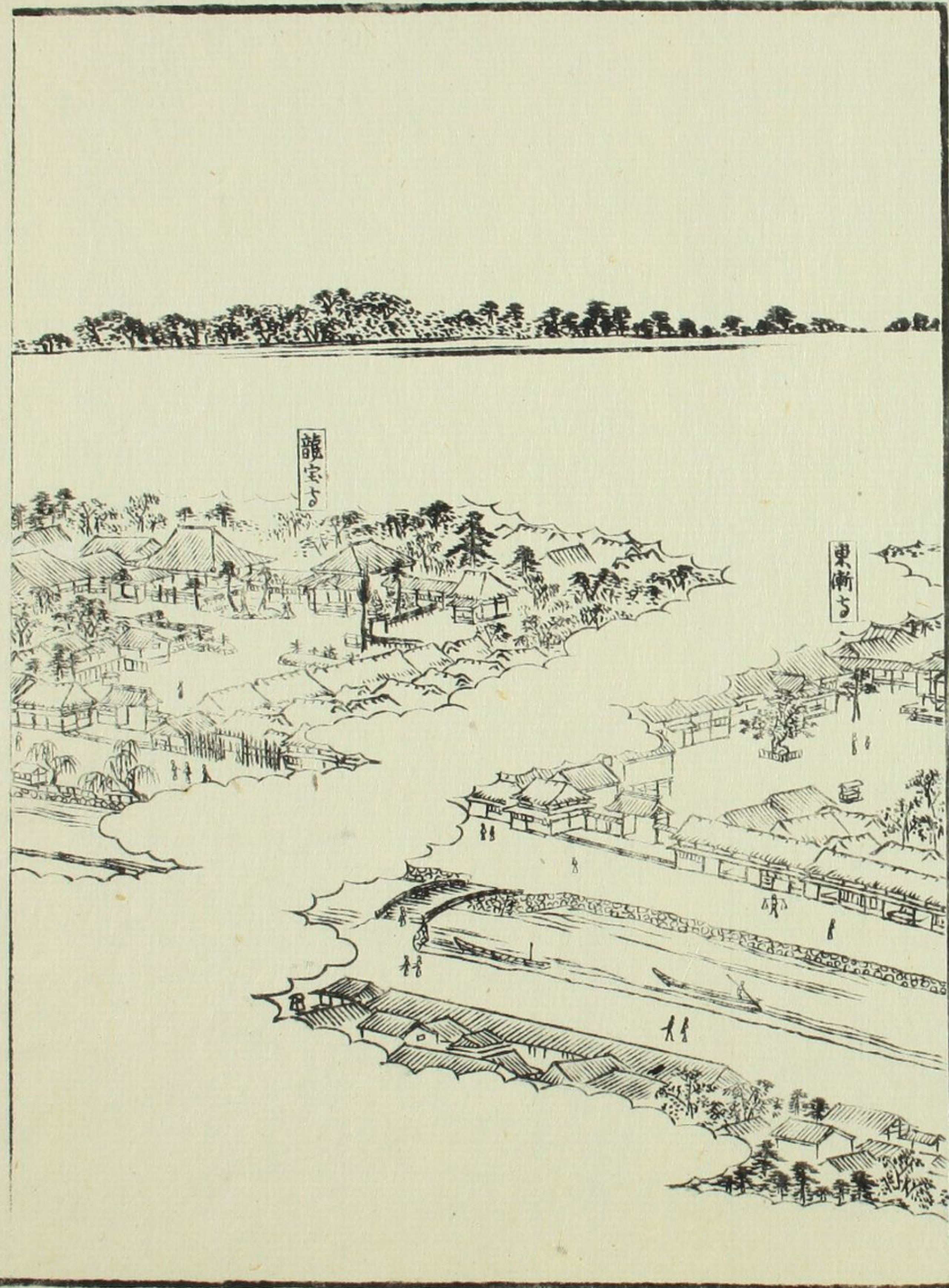
等とあり往古三カ所ありと慶長の頃 台命より依て学阿弥河臺

小福され又寛永十五年今の所よて地とあり一其中法幢を立檀林小准と

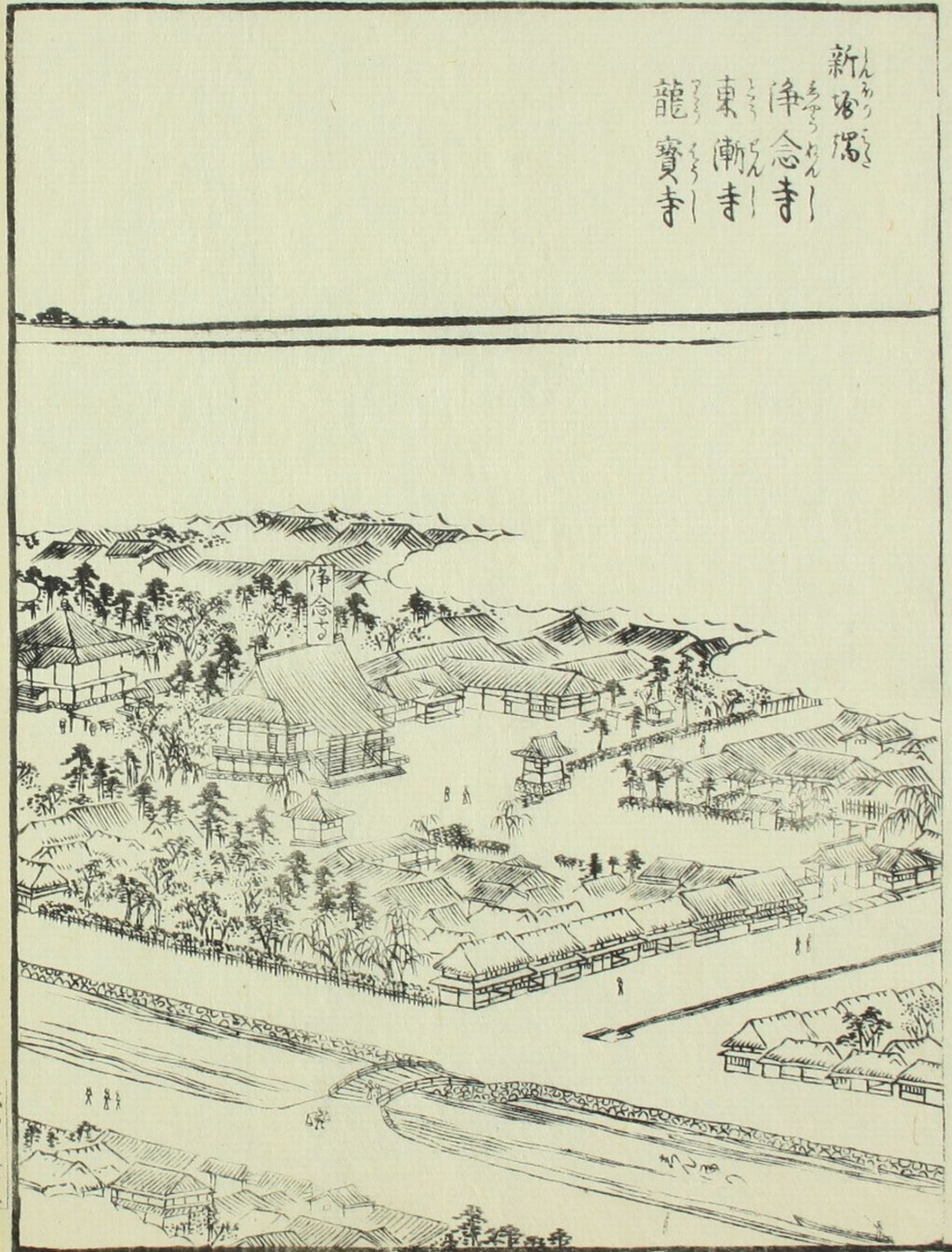


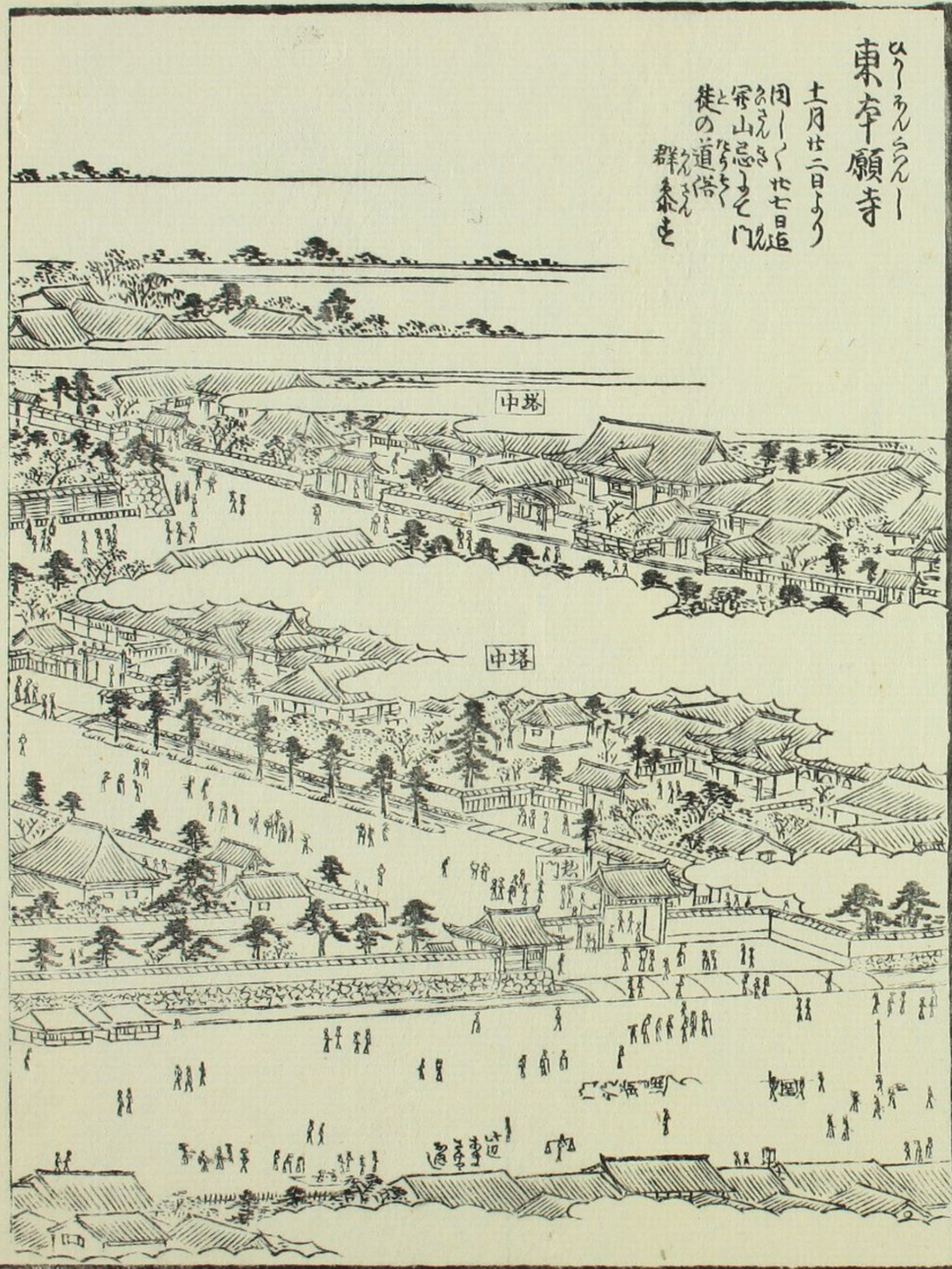
西福寺





新堀
浄念寺
東漸寺
龍寶寺





ひがしほんなんし
東本願寺

上月廿二日より
因りて廿七日迄
登山忌として
徒の道徳
群衆を

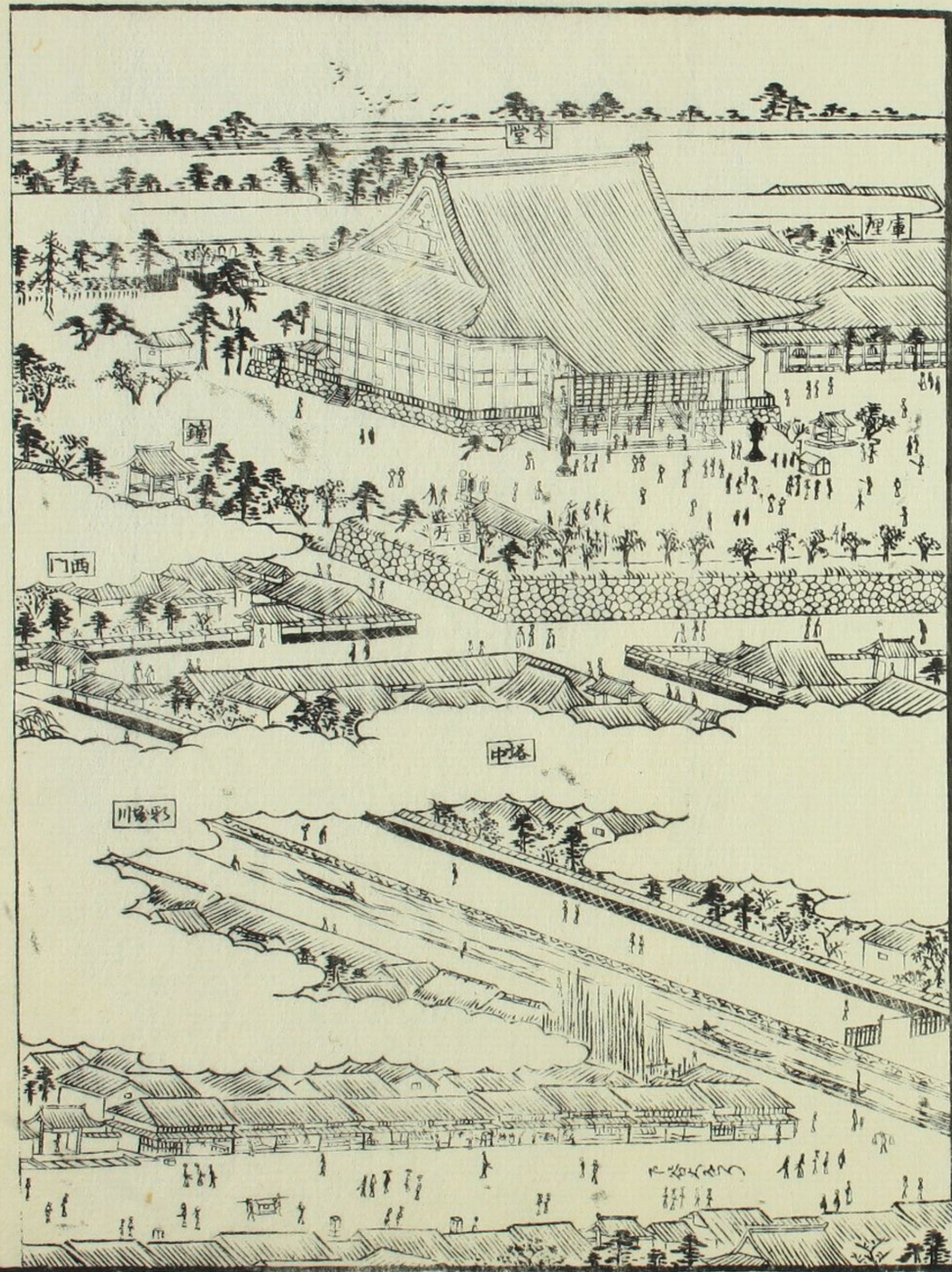
東照大権現宮神影 神影は三輪あり各歳四月十七日所祭禮のとは諸人より拜せり
 江島辨財大祠 辨財の像あり年々所祭禮ありて法大師の筆ありといひり
 化用山常照院浄念寺 浄念の像あり
 同所西福寺の北の通あり浄土宗宛山の性空上人

露体和尚よりと永禄年中の草創と奉る阿弥陀如来慈覚大師の他
 作りぬの尊像と稱し胎中小鑿 鑿等と入ぬ其長二尺三寸あり
 寛永十二年駿河室より今の比小極る 大師の像なり

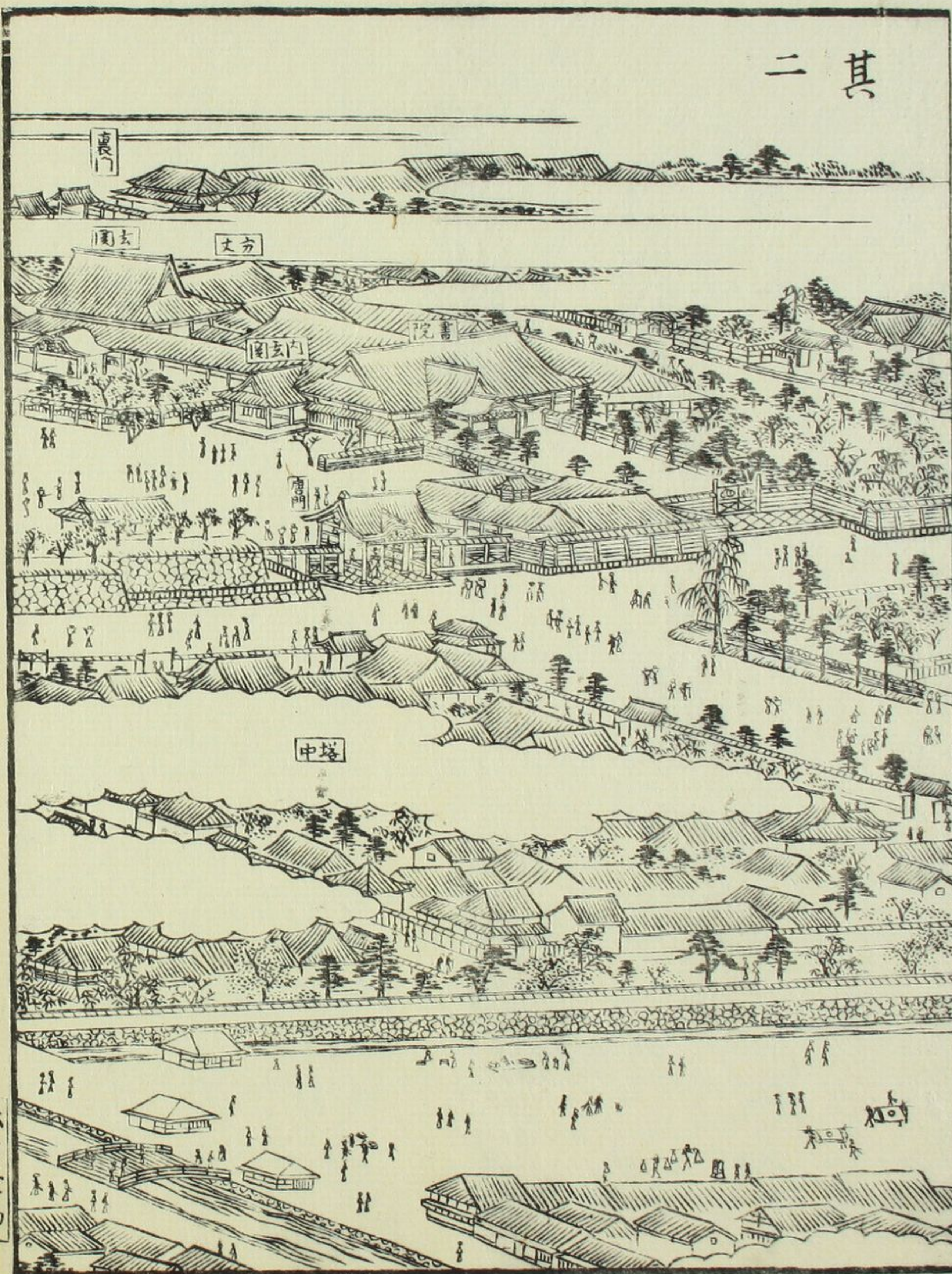
正保山東漸寺 聖王院と号し天台宗よりと東叡山小屬と浄念寺の北小
 あり奉り尊師藥師如来行基大師の作あり 書寫性上人常小獲持の靈像より賜し
 秘に寄願あり者なり 宛山の慈覚大師よりと田道権再興と始御持内りあり

手向野 天和二年十八年うと奉りて此手向野小塔を建て傍に碑を建て手向野と彫り
 記を其比に同不全法もの境内にて一時交歸あり 子伊を奉り墓あり
 或云は此塔は東陽の境内あり 諸善小載せ東陽も今も今も夜睡り

風の音昔よりありて此塔は地ぬ浄法は是も向あり



其二





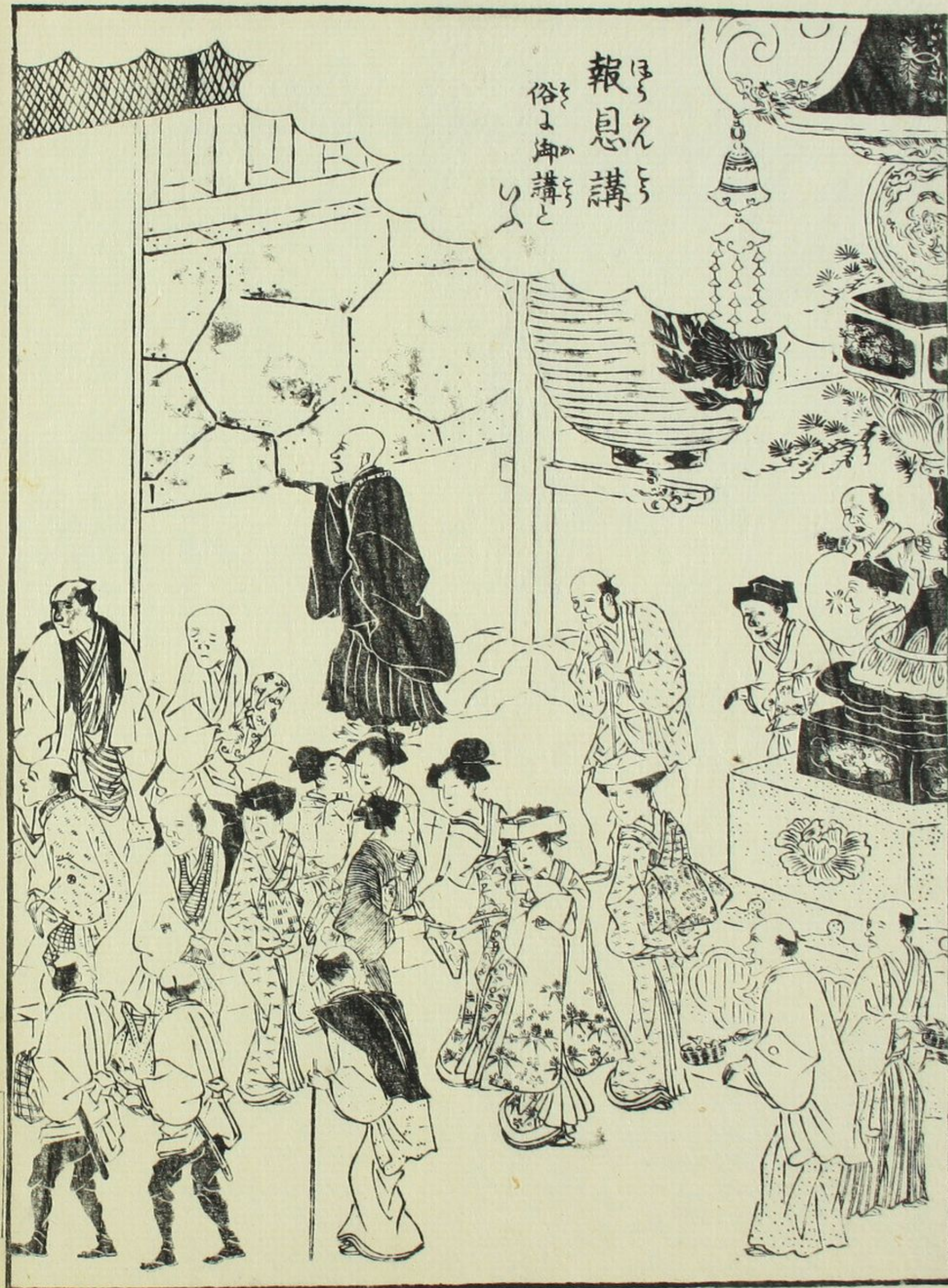
西山宗因

霜月

平等

りせら

そーや



報恩講

俗に御講と

東奉願寺

新堀端大通小あり

其先奉山の住

徹たる一と豊臣家のをわつひとと順如上人の舎第を奉寺の門跡小定

らと教如上人を故るく退隱せりや裏屋舗小並れしを此故東門跡

神祖貴小召出され元祖上人の真影を御寄附ありて六条室町の未

新御堂屋舗成り賜る夫より後東西とつかる其後未寺建立あり

一字成建く京都よりの輪番所となりゆ中の門徒を勸化す此則神田より寺地を承領す

若此今日目手橋の外加賀を敷と唱る所今曆の後の比小横されり此寺を朝鮮人未聘の

御旅館とるる 宛山忌 毎年土月廿二より廿八日までの間續報法事あり

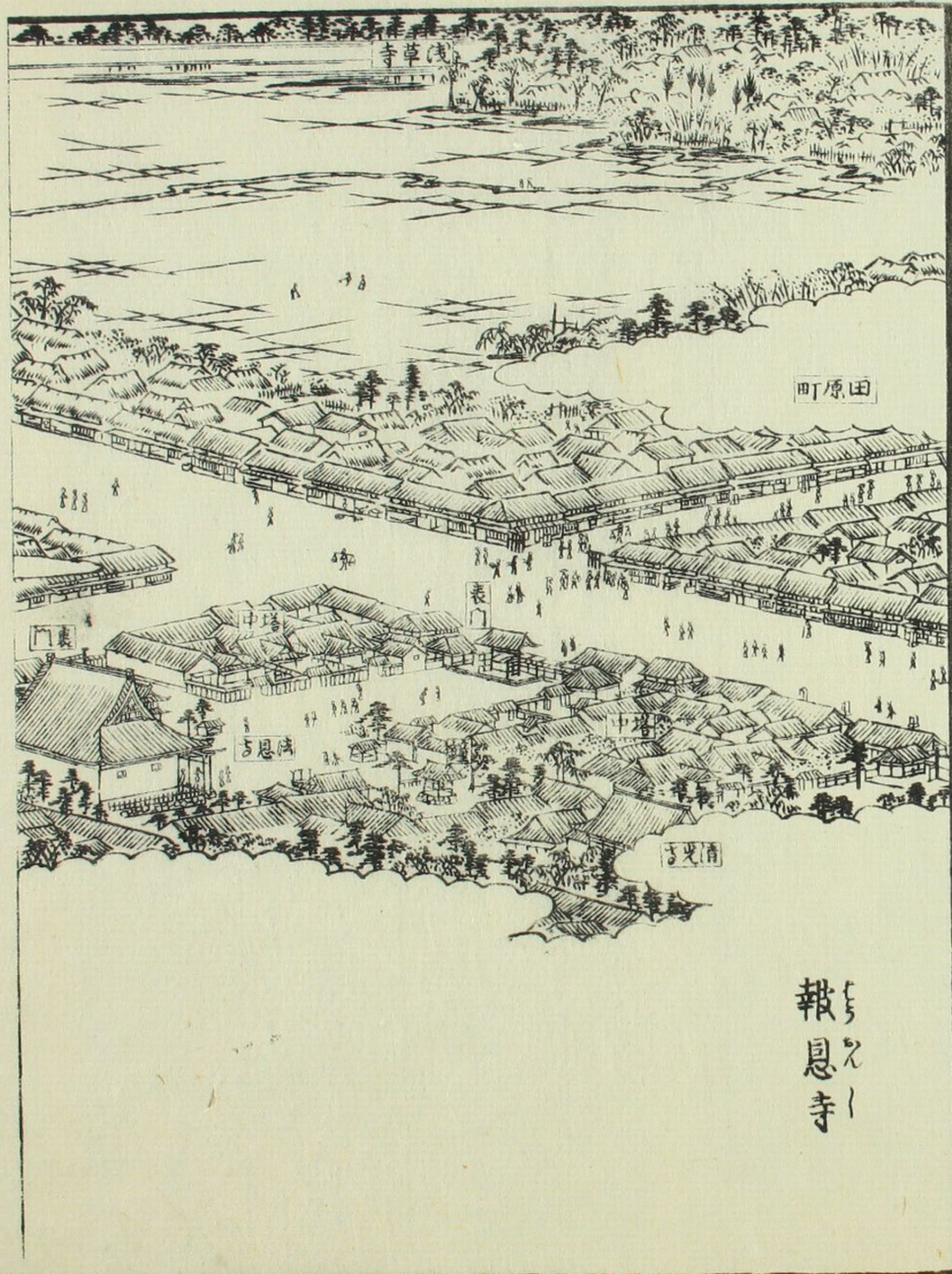
高龍山報恩寺

謝徳院と号し東奉願寺の東小隣る一向流して宗

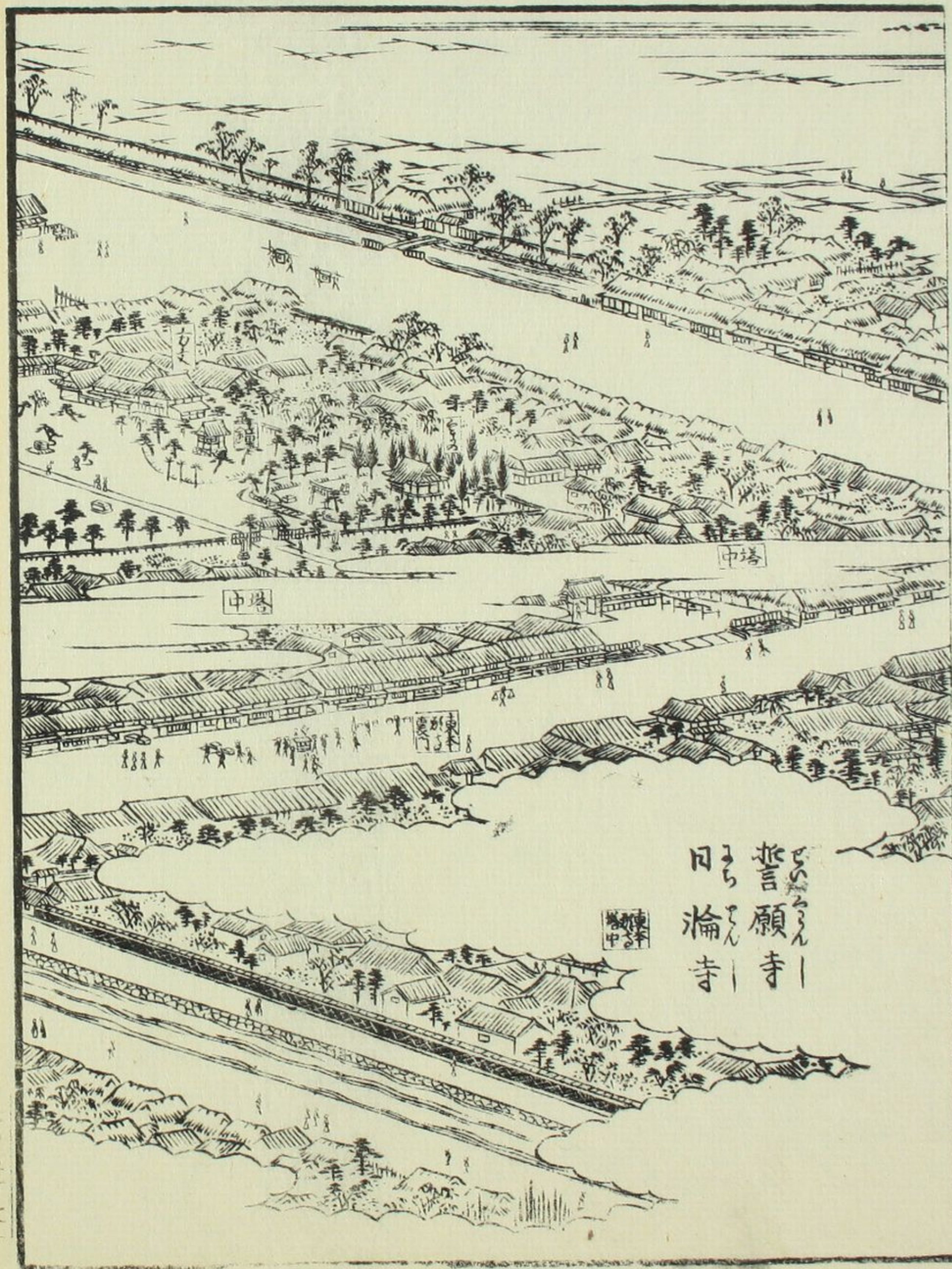
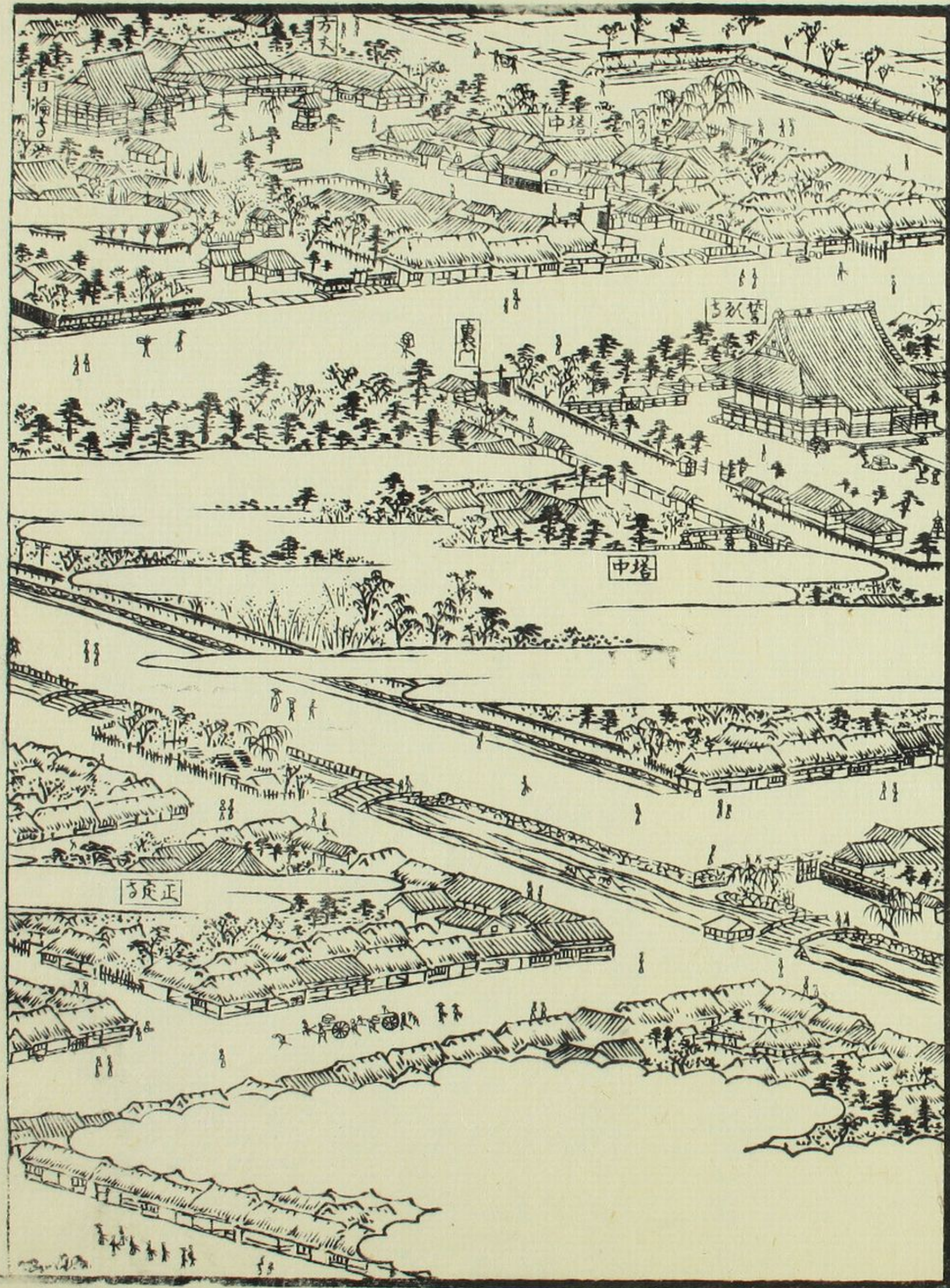
祖上人の遺跡二十四輩所の随一あり此寺は下總國豊田の左横曾

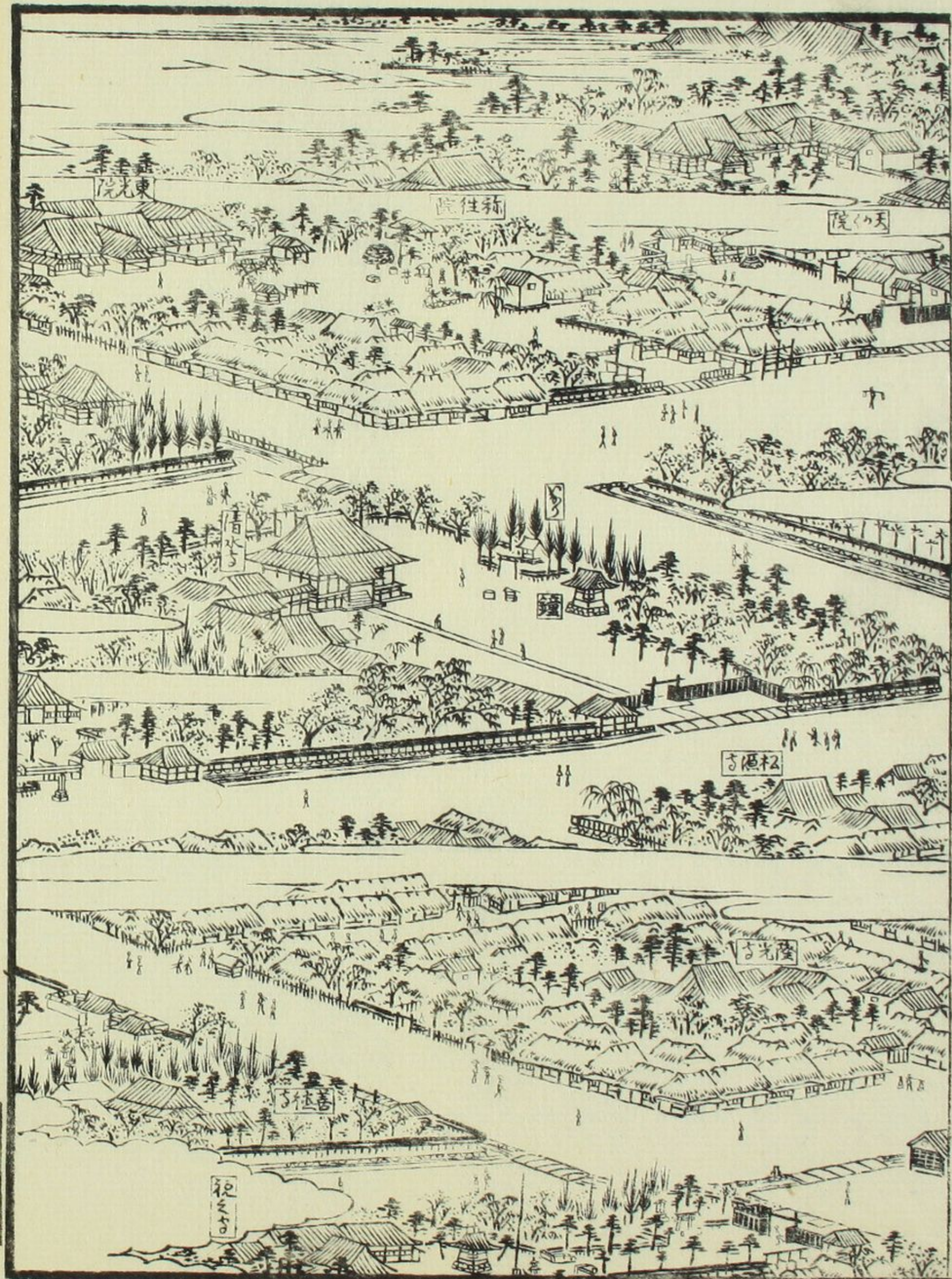
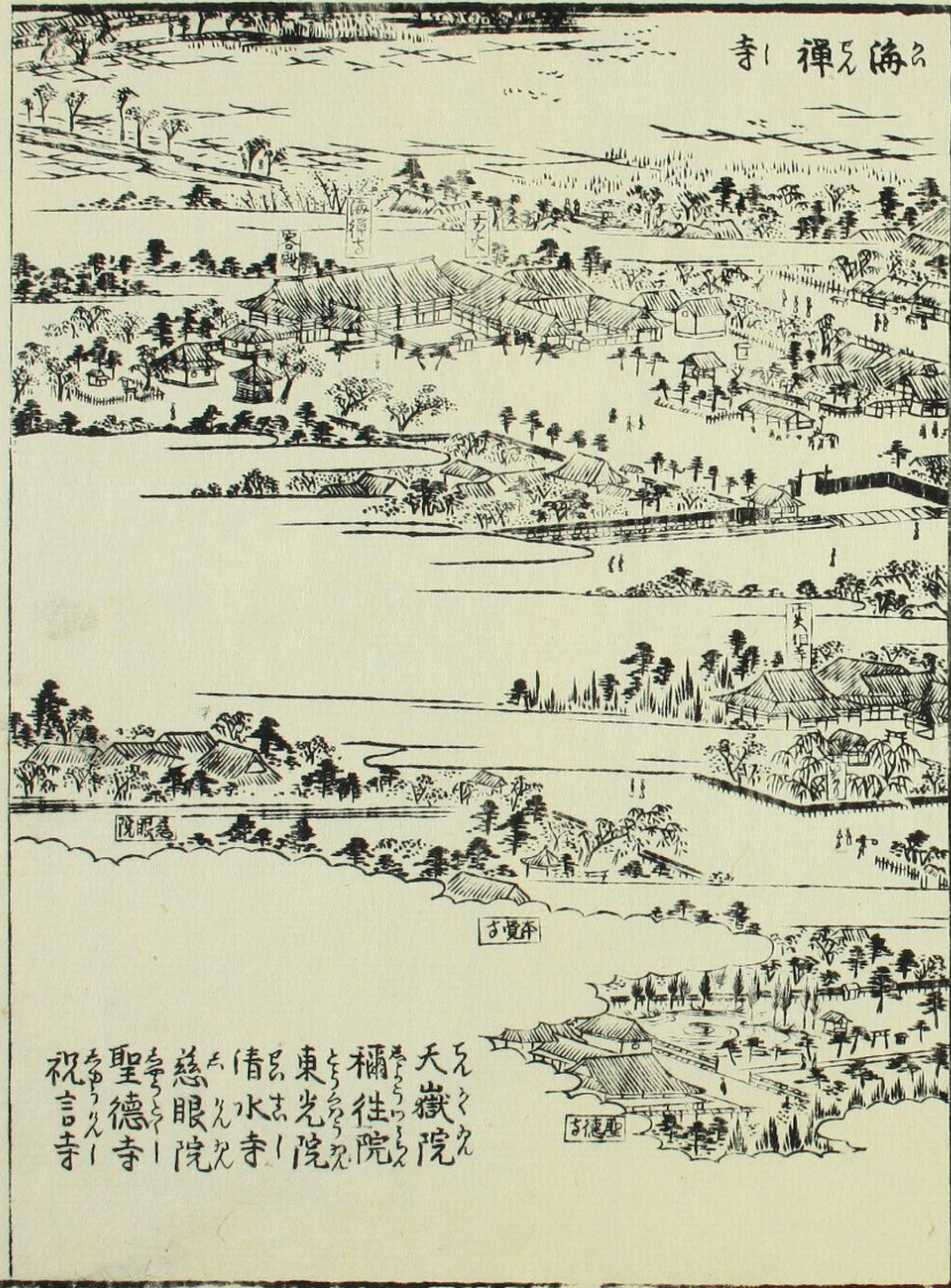
根有る數十世後結城の城主七島左衛門晴朝の臣又賀賀何某

といつる者の為よ寺領田畑等を押領せしむ終り武刃子移し梯



報恩寺





田小ありし後八丁堀に迂り明曆火後今の地小あり

猶存 兎山性信房俗姓ハ大中臣常列鹿島郡の産之幻名を與四郎といふ

天性多力勇悍心狼戾うく禮法を去るん唯漢獵殺生を事とするのこ

十八年の春 紀の熊野山一詣り歸るさ洛陽小あり適東山

吉水よ成ひく法然上人化力奉願の肯と説めを以頭よ鬢髪を

薙て佛門よいんるを頼み依り性信と名を授く夫より寫師に隨

て昼夜側をさると師尤遷の時も陪從して凡二十五年を経り建保二

年師下總に往く大に群生を化と同國横曾根のふよ朽敗の古刹あ

る性信きて住む其後貞永元年竟小師の命小應一彼地よ還つ

大に東冥を化度らんと念佛門を弘通する小道俗元満く場小溢

る多小をひく古刹再興の志願を企て其地と求りこ小沼あり飯沼

と云う則是を湮埋して佛閣を營む報恩寺と号と 權譽あり どの沼の

側より天満神の祠あり同年十一月七日此神老翁と化しるあり

聞法隨喜一師弟の約懇懇あり 又天福元年正月十日此神何

某の夢小生るく曰く是より後永く師資の禮讓として御多洗の鯉魚を

報恩寺に贈るへくと云 依鯉魚二喉を捕て師小贈る師も又是を謝せん乃神

前小鏡餅二枚を供と 此野谷の例今よまふく怠慢や毎歳正月十日設法天祥の御多洗の

返礼とて鏡餅を供せ則彼化よても天満宮の神前よ供 建長二年の頃性信夢つるる

同廿五日初連弁を真行の後鏡餅を宛れ後を同何とす 其地よ寺を營むは徳寺と号を中古

あつて奥列山中よ自過去生の枯骨取得る 諸家の禪宗よ改め光徳寺と号を中古

畫上あり 竟建治元年七月十七日下總よとひく寂を示して化壽八十九 以上兎山の要

寺寶 親鸞上人壽像 有よ拂子を持し左よ珠粒を持嘉貞乙未年性信坊洛陽小あり

彫刻ありて性信よあられ 五ヶ佛舍利 奉尊名號 真蹟ありて横曾根光寺の

本願 同九字名號 田宗祖上人 殊教一連 親鸞上人より性信坊に揚

去生骨 夢想に依り奥加太湯 教行信證一部六卷 親鸞上人の真蹟あり貞永元

屬ありしと今程 蛇反釵 長六寸五分平の作とし又の不成の作をとり性信坊後曾

性信是は退んんとするよ力り空く年月をうらり移るよあると死斗殺の僧一人未だ山門の傍

熟睡を時よ沈中より悪龍を被僧を呑むとせあるよ懐中よりす釵を被惡龍を所く又

舊地様曾根小くむ野の 寺と軍光寺と号し今

傍一宇の草庵を結ひ芝崎道場と号す 権輿の 其後あるの星霜を
狂く慶長年中神田明神の後河臺へ迂され當寺の柳原のりこ地を
賜ふ又明暦の頃今の地小うり 寺傍に在るの由緒より今も隔年九月十五日
神田明神祭禮執行の時ハ昔より上人以下衆僧等社
頭より誦経念佛等種々の法ありて後神樂を慶したるを怪例とするハ今よりより
光明山天嶽院 遍照寺と号す日輪寺の西隣る浄社の法窟よりて天正
年中善空上人草創と云山へ圓蓮社滿譽上人と号せり奉尊奉嶋觀世
音菩薩の唐佛よりて順德帝建保年中相別鎌倉鶴岡の社僧良真傍都
入宋の時音王山能仁寺より將來せざる像ありと其後豊後岡の幕下
津田勝重と号する者此像を感得と息え重伊賀國牛島と云ふより頃此
靈像の昔よりて群賊の蜂起を治め武威を國中に振ひ依人民伏して
牛島殿と稱す其後之重當國に越えり頃故ありて當寺より収む則ち
内より島え重の墳墓あり當寺舊ハ浅草橋のうらよりありり明暦
回祿の後此地小移る

一心山彌往院 同西隣る捨世寺と号す浄土宗よりて奉る阿弥陀
如來ハ丈六の座像よりて惠心僧都の作り脇に觀音勢至の二菩薩を
安置す宛山の幡蓮社白峯稱往上人 姓ハ飯田氏の野州
字津田の人もあり 當寺舊ハ小田原
よりありり慶長年中當國へ移され湯島に地を賜ふ後後今の地小
引をり捨世一流常行念佛の道場よりて殊勝あり 當寺ハ山光大師
月影の御影あり
藥王山東光院 同く西隣る鑿王寺と号す天竺よりて東嶽宗屬す本
尊溜隔光如來の像の佛ハ春日の作り付云慈覺大師當寺を草創
ありりとを往古ハ顯密二教とも弘めて台宗一百八箇寺の總奉寺たり
中古右内道灌此靈像を崇敬し以て城の鬼門に置又其後慶長年中日光
御門主一品尊教法親王山門を動寺の松林坊賢海法印より仰て再興也
む
神祖其改院主と命ありては隆長久の御祈禱よりて正五九月小大般若經轉
讀せしめらる 此御今よりて今も我茶師堂より浅草の地を移り明暦回祿の後より

持ところの
 竹の節をとりて
 一は投すれり
 其箭をのれと
 發し一鹿を射し
 師則是をのりか
 獵人發るひく其れ
 のころと惜りぬ
 松竹を穿ら既り
 枯骨を得りれ性
 信坊歡喜踊躍し
 竟其地を封して
 の精舎と管す
 号は法得寺
 とのりし



建長二年の秋
 性信坊爰想入り
 生の枯骨の不在を
 此松竹は我過去生の
 枯骨ありは
 是を捨す
 得るはと
 獵人云く
 我業を
 明日の糧
 を依りて
 信坊獵者



大雄山海禪寺

同所新堀の小川を隔て西の方より

形似寺流の禪宗

ありて江戸四箇寺の一あり往古平親王将門總州相馬郡よりありて草創

する所の佛刹ありされと將門亡るの後年を歴て荒廢よをよひされり

鬼の栖とまりを慶長の頃覺印和尚再興して寺を江府陽島の比小

移り其頃

神祖和尚の道徳を尊し一尊教ありとられり後ハ寺院も輪奐と

して宗流殊に盛なり

清水寺觀世音菩薩

海禪寺の向ハ新堀端より昔ハ淺草橋の内より

あり明曆火後今の地よりなる寺を江北山清水寺と号すと天長年中

慈覺大師ひとりの勝地を求め天台法流の一院を建立ありて之り

一ハ三禮ありて千手大悲の像を作り奉ると其昔ハ佛閣堂を

ありて魏々たりり二年去年末王皇相を歷りて堂塔大ハ破壊せ

しを文祿年間慶圓法印といつる沙門靈告成得て叡山正覺坊の探題

豪威僧正と相謀て堂宇を修管一昔ハ復り

上宮太子堂

同所を丁より坤の方よりあり寺を用明山を徳寺と号す

浄土宗ありて本尊聖徳太子像ハ御自作ありといふ

天皇御悩の時太子神明佛陀ハ祈誓言ハ至孝の誠を權あり御悩事

平愈ありと云々許實の乃ハ自ら作りせり御年十六歳の御影像ありとて

上人念佛弘通の乃此靈像を守り奉ると冥東より王母根澤より一守の

精舎を建立せし其後亨徳二年忠蓮社加築言上人良

祐和尚中興一合宗を改めて浄家とて慶長の頃馬喰町馬場の辺小

移され明曆の後今の地より引せたり當寺門の内ハ比藏尊の名像あり

除厄太子堂

同所北の方浄土宗天竺山慈眼院より女を徳太子四十

二年の御時除厄の為自彫刻あり一靈像ありといふ

萬年山祝言寺

同所南の方通を隔て西南の方よりあり曹洞流の禪宗

明曆回祿の時奉を考み依住僧徳譽上人深く是を悲を竟に靈告を

傳りて此の中島より此奉を感得一再ひらき女並りむるとり

樹平町の辺小

樹平町の辺小

みして良山存久和尚宛山たり往古に戸塚の辺祝言材とつるありて天
文二十年の頃方内道灌草創と天正の頃山号を賜ひ又此地に遷る

日蓮大菩薩 同所新寺町より半丁より西南の方より安立山長遠寺

小安置す侍云往古花洛南禅寺の普門禅師より年日天子を信致し

一朝日輪の中より二菩薩の尊影を拜せ依て自筆をととて親曼を撰

奉て靈告より弘長元年辛酉六月逢ふ東より豆別伊

東小より同六日蓮上人より謁し彼二尊の慈眼を乞求む則上人は眼

供粮ありて花押を添らる又禅師深上人の徳澤を慕ふ故に大士

自肖像を造りて禅師のものと贈らる 禅師歸寂の後京

師要法寺より又妙榮寺より安置りて故ありて文禄三年の

頃當寺に遷り 神岡山幡隨意院 新知恩寺より浄家十八檀林の一室より奉

尊阿弥陀如来の安所弥の作り 妙龍水 奉堂の左より傍に碑

碣を建る其文中小記

山幡隨意上人天正十年の秋越後國高田の善導刹に在りて七日の間に時念佛修行の
修し其の法思の乃に捧りて上人の清泉ありとのり
龍の則龍女の法より上人授與ありとのり
宛山廣蓮社智鑿言上人 幡隨意白蓮と号す相州藤澤郷善

行寺村の産俗姓の川島氏より天文十一年壬寅十月十九日誕生る兒に

る時常に佛像を禮し妙門を教す九歳より父の頃出家せんとのを

ひとしとも父母是を許し既して十一歳竟小同國玉繩邑二傳寺の範誓

上人より授り落髮授戒し幡隨意と号す爾未所くと経歴し数回の三

序と経宗要の玄微を究む 天正年中上の館林の刺史藤原康政の請よりて彼地

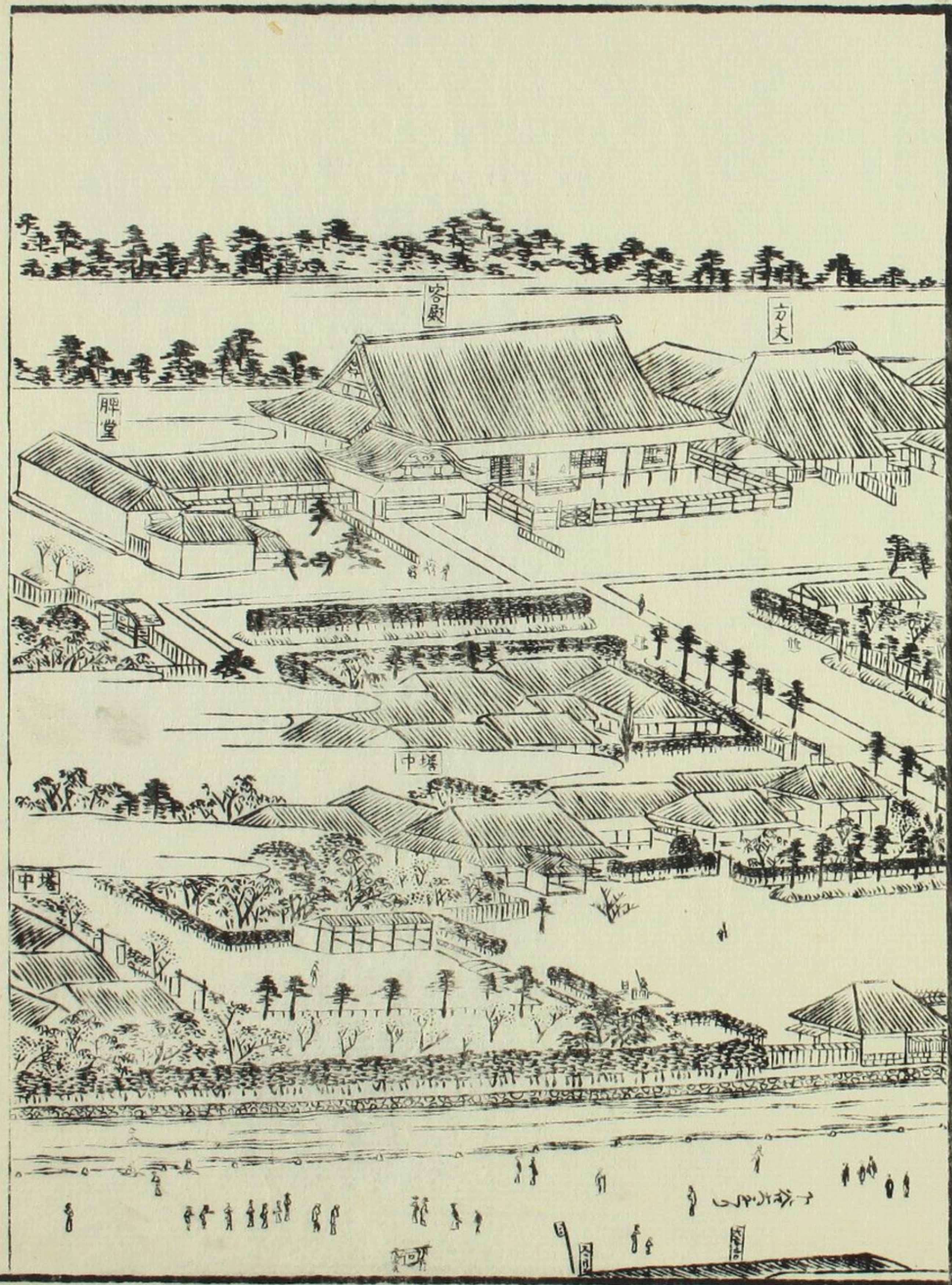
下徳田宿より大竜寺を草創し又 慶長七年壬寅 洛陽知恩院に任職

す此時紫服を賜り鳳闕に登り浄家の秘蹟を講じ其上大なる感

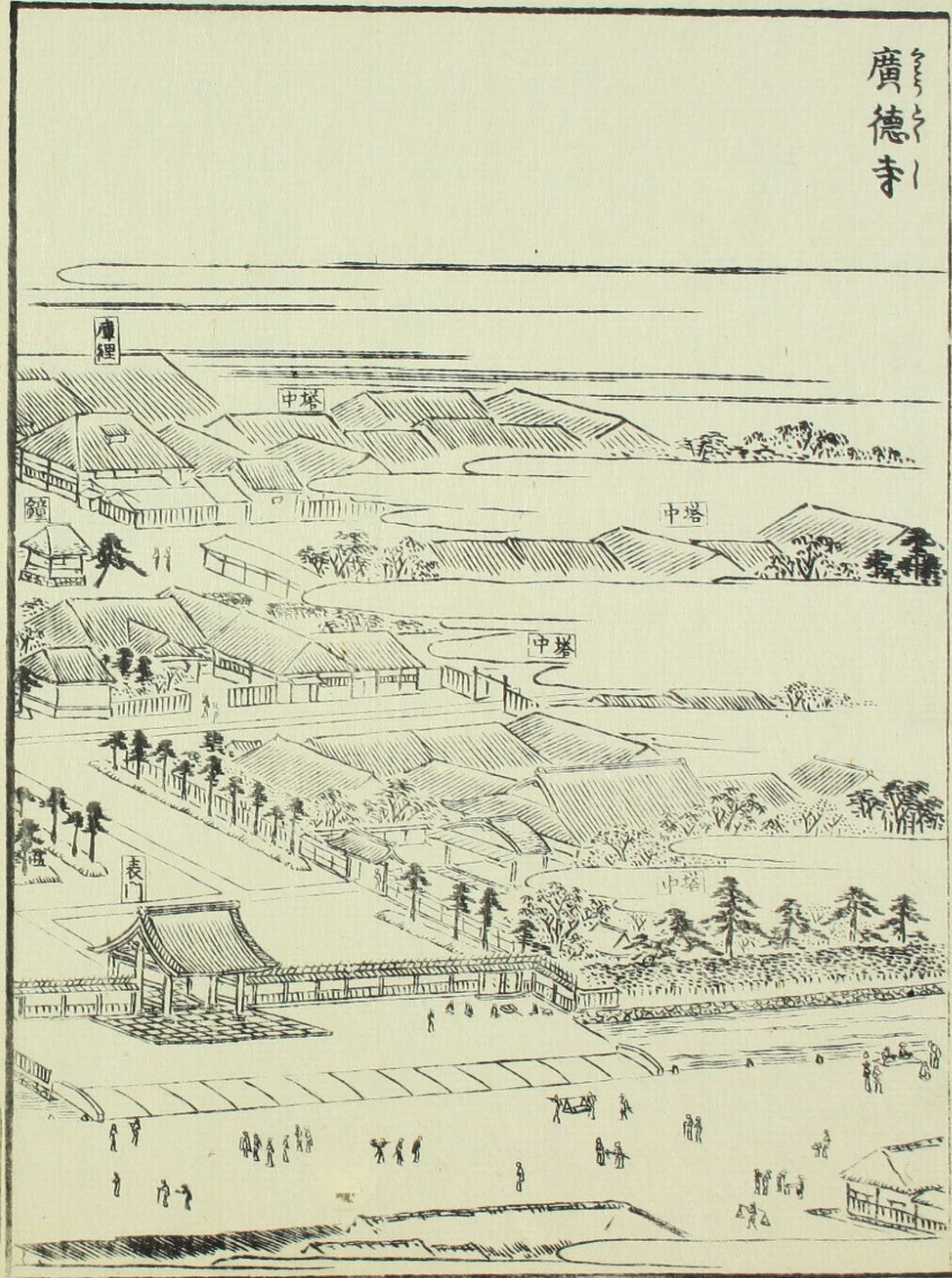
あり同九年甲辰東武の招より再び此比小下向し神田の臺小聖に

此をゆひ一宇の林九刹を闕し神田山新知恩寺と号す

三年庚申 歳六 武別熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵あり



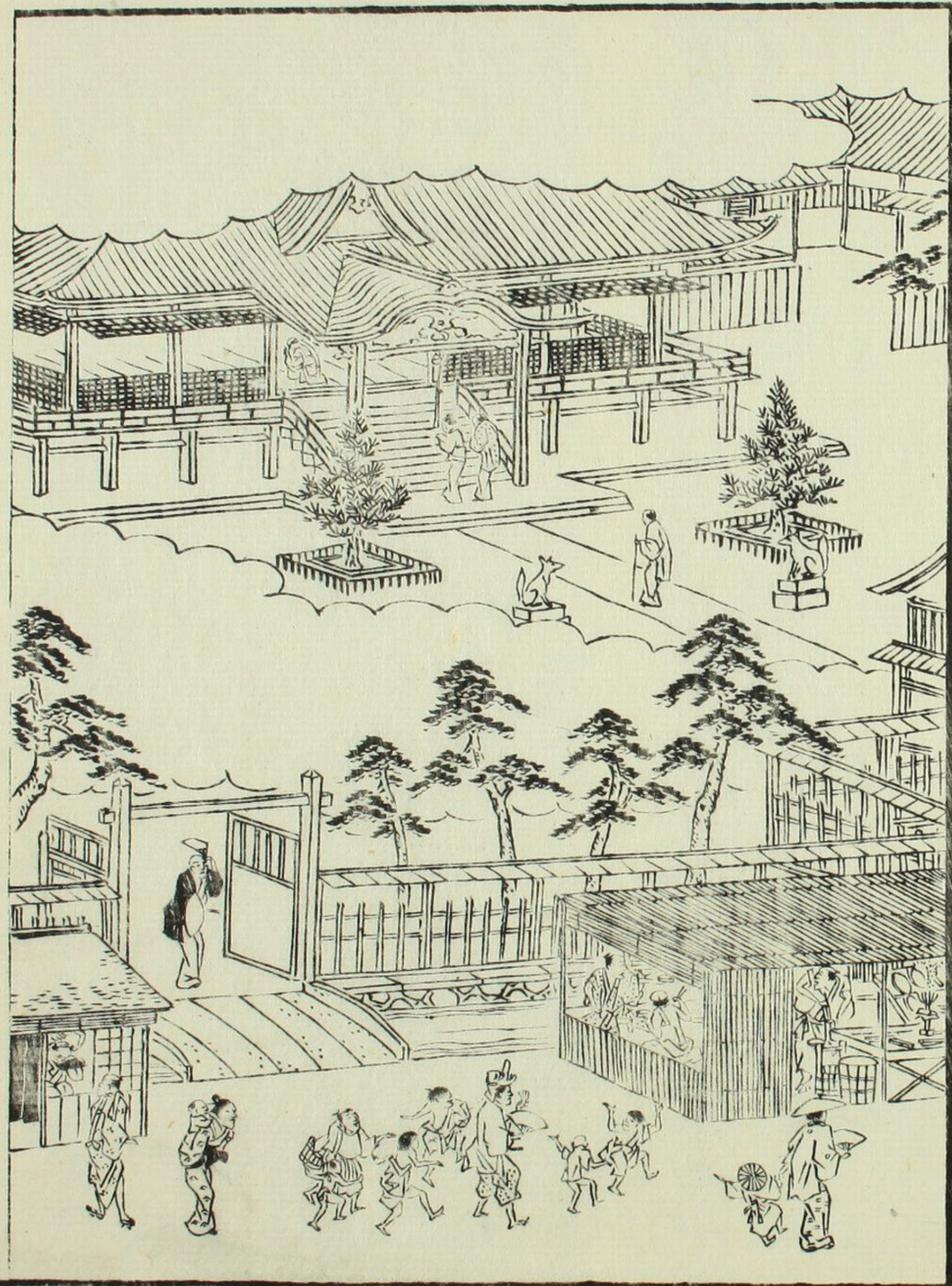
廣德寺



己一を轉々精舎と一徳谷寺と号す台命はよりて金祿の築造と 同十六年
辛亥歲七十 勢別山田小入門寺を完基を勉小同十八年癸巳歲七 蠻夷の
凶賊九乃小發王邪法を弘め幻術を以て一人を惑し頗爾を傾んとする
の兆ありこれとも是と平治す小予支を動す時の國中の人民を塵小する
至少り高僧小命一正法を導しわひよとて小を以て衆義一交し
幡隨意其器ありとて直小召と 大樹自命とて云く吾軍國
患ある時の必佛法の護持よりととり師ハ既天下の法将より邪徒
と退治す此の英雄あり又邪徒小對する軍將の予支を揮ひ敵陳し向小
等一々れはとて蜀江の陳羽織及以金の軍配團扇とを賜ひ急に彼地
小赴り凶徒を教化しめ國家の患を除へとの旨釣命あり一師も辭
さるは語あり命は應し終に九乃小より邪徒と宗義の對論あり一
各道理を歸しと凶徒並志をゆるし一邪法を去り淨土門に入り實
一師の徳のまのまのなるなり一 其後又

軍配團扇の幡隨意院に藏すそののちまに
陳羽織は法探曼を付たり

命よりりめ一梵宇を創立し觀音寺と号す有馬氏城前國九國上秘
今二河山白樂寺也 其
後崎陽小より大音寺を辭れ竟に晩年よとて紀別和乎山に於て萬
松寺を建立しとて住とれ一日微疾を疾と上足意天和尚保川雲
巖
二世のりとてより師の病床を訪ふ師大に喜ひ傳燈の法まらるべとて未女く
傳法あり且諸弟に教誡し遂に親床に坐し筆を求め辭世の偈を書
しと云く白道運歩數十年以火消火難思術と書畢て筆を擲端坐
合掌して高聲に弥陀のその号を唱へ眠り如くして化と眠小え
和元年乙卯正月十五日歲算七十四以上行化傳の
要と摘
信別善光寺燈明 寺所赤城山燈明寺とて宗の寺あり有公の
軍是とて寺内は赤城明神と鎮せり
朝日山永昌寺 願成院と号と下管大通あり淨土宗とて鎮蓮社尊譽上人
を完祖とて奉る阿弥陀如来の運慶の作なり觀音の慈惠大師の作とて
世は除厄の寺なり 寺傳に云く其の寺は天正年間下管長者某其名今
草創とて同所長者



下町稲荷明神社



町とあるはありとえわの頃今の比より引つりとも明暦二年丙申松浦家の
母儀永日院再興ありとあり則境内は長者の墳墓あり

圓滿山廣徳寺

同所より大徳寺流の禪宗より始相小田原

ありありと天正十九年江戸に遷され神田より比を湯
其後寛永の末今の比に遷る元

山と希叟宗平禪師とあり

當寺の總門の名通の美事あり是近風火の難ありととも恙あり最古の規
兼とする所あり詳は橋本主人ありのる新斎夜話とある草紙より

下谷稻荷社

廣徳寺の向の側よりあり故に俗に廣徳寺の稻荷と稱す

是大なる説あり別當を正法院といふ祭神は蒼稻魂命より奉祀十一

面觀世音の行基大士彫刻の靈像ありとと中の鳥井小正一後稻荷大

明神と書る額あり崇保院と寛法親王の真蹟あり拜殿は掲ぐる

同神号の額は蓮花光院道怒の筆ありと社祭礼は隔年三月

十一日執行す下谷の鎮守と稱す

王子橋山町
成内領一郎

